

石立  
稽古

置碁自在

五目之部下  
六

79  
3704  
6



3704

置碁自在

此石互黒れし後物

あり面玉さし筋之

んゆえんし二四と

打先のむをむは

黒四十石四十二石

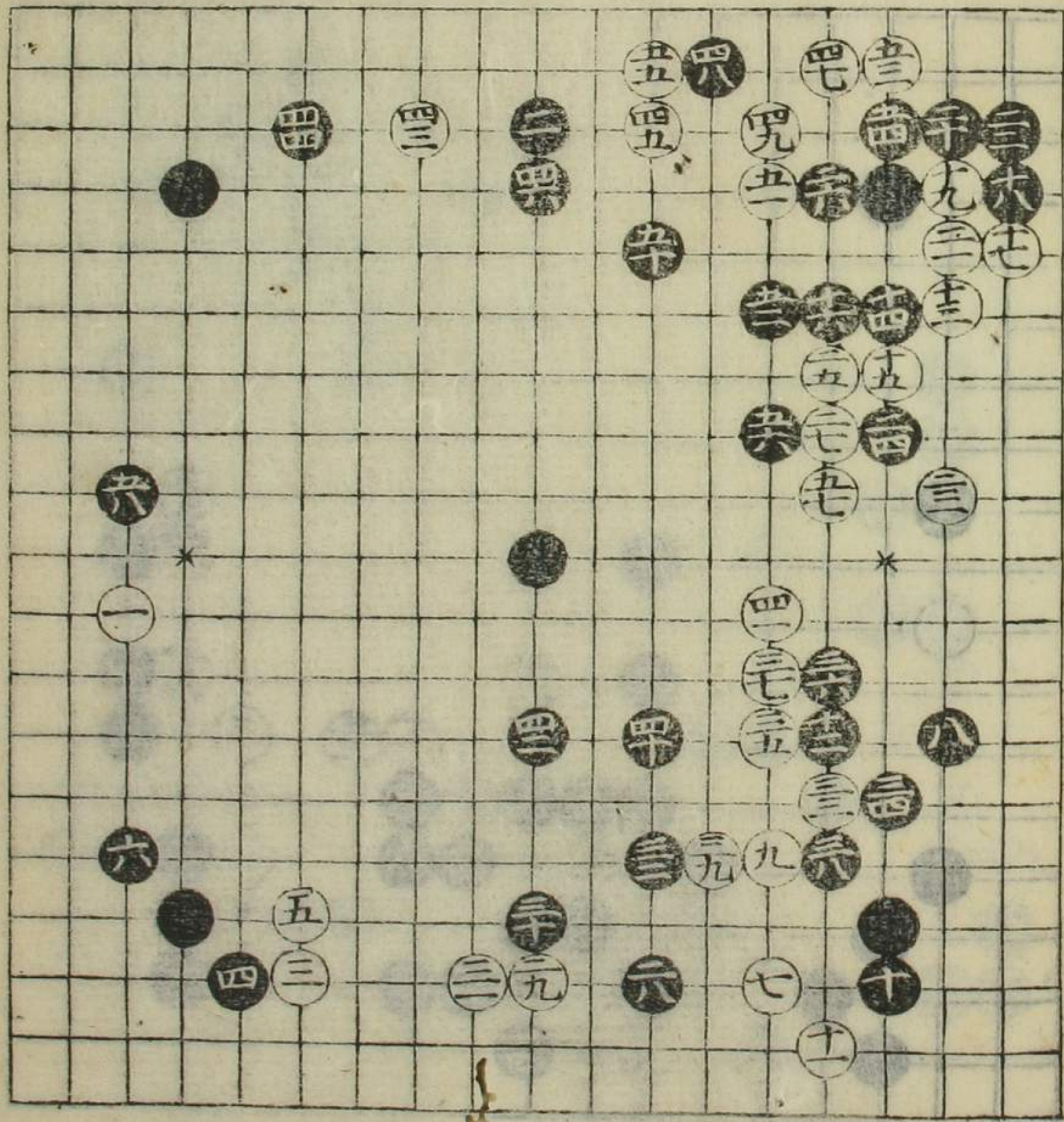
四十八石五十九石

六石白二十九のむ

黒れ三二八石三十の

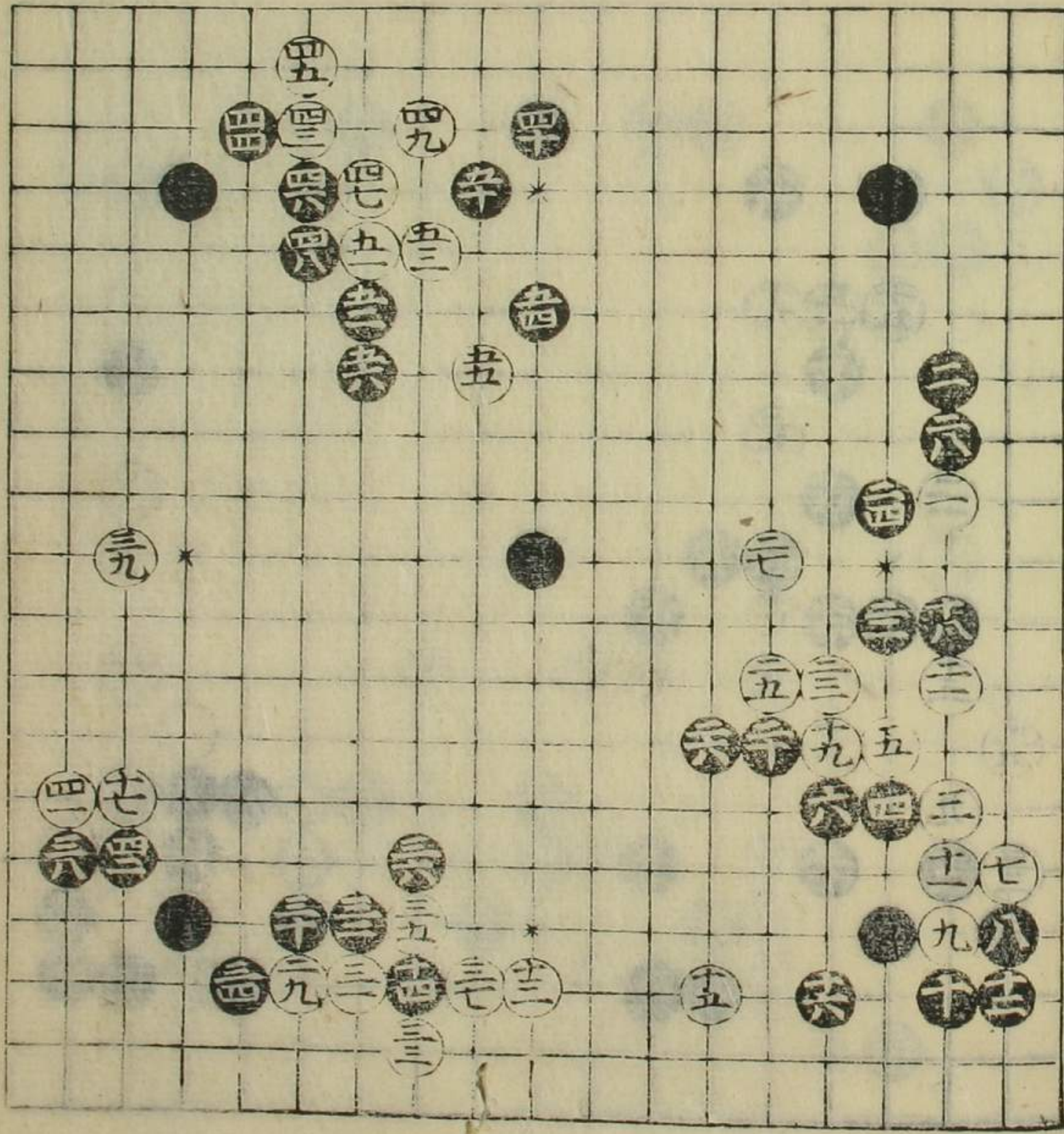
多に植るふむは

五目置之部

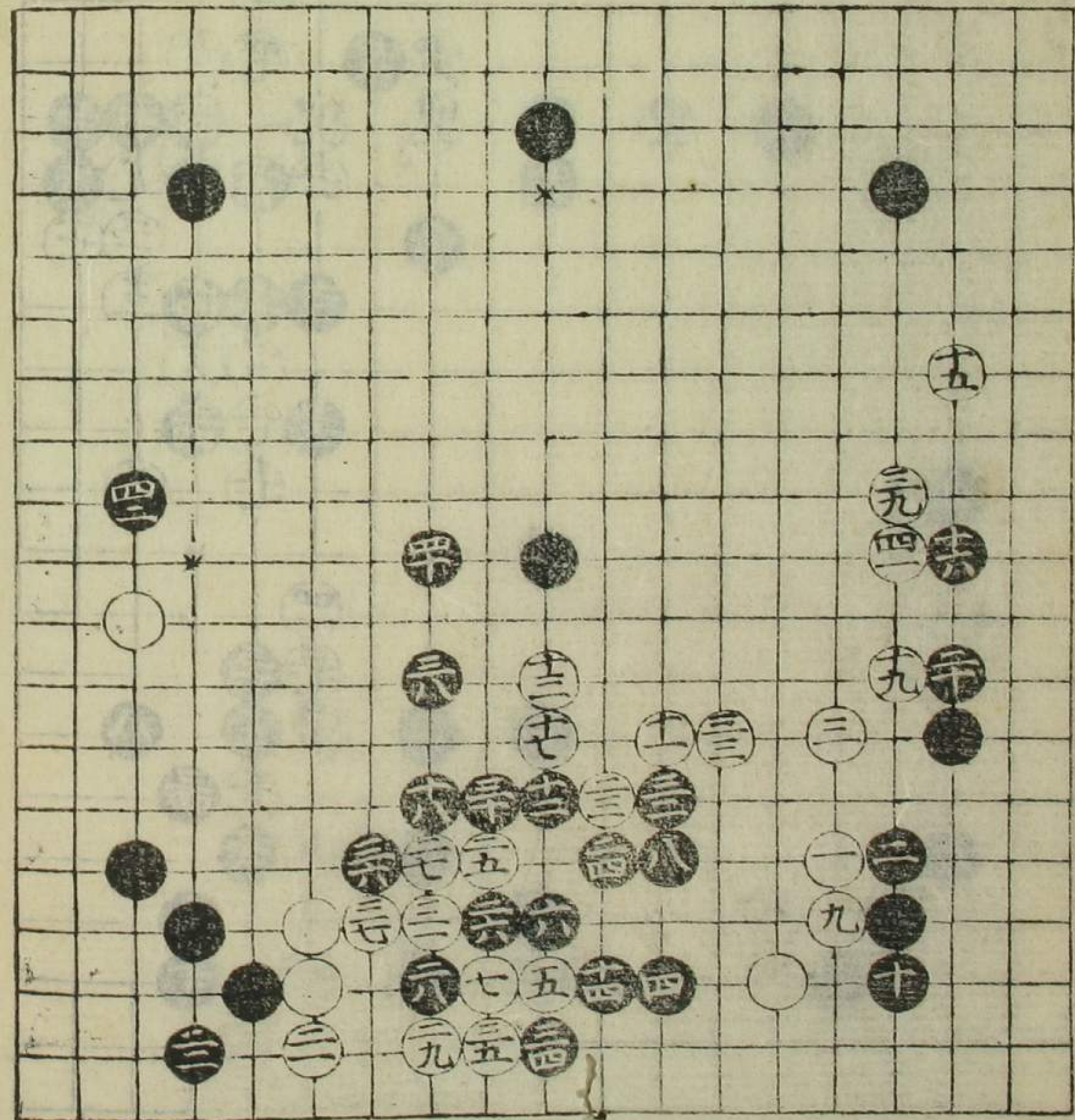


下巻台二十六

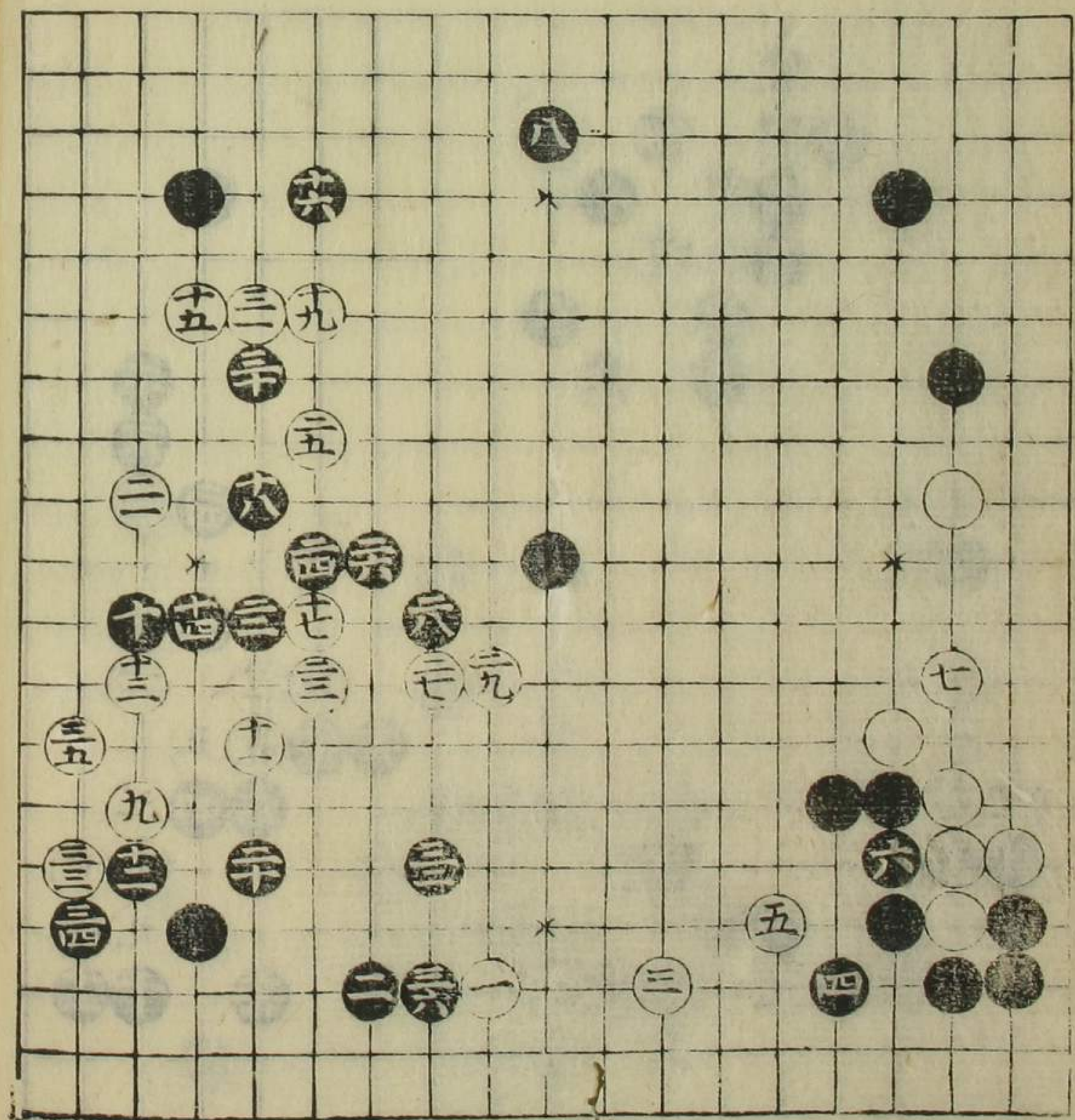
此石立活れし白  
打込をうけりてハ  
悪一決り紀也



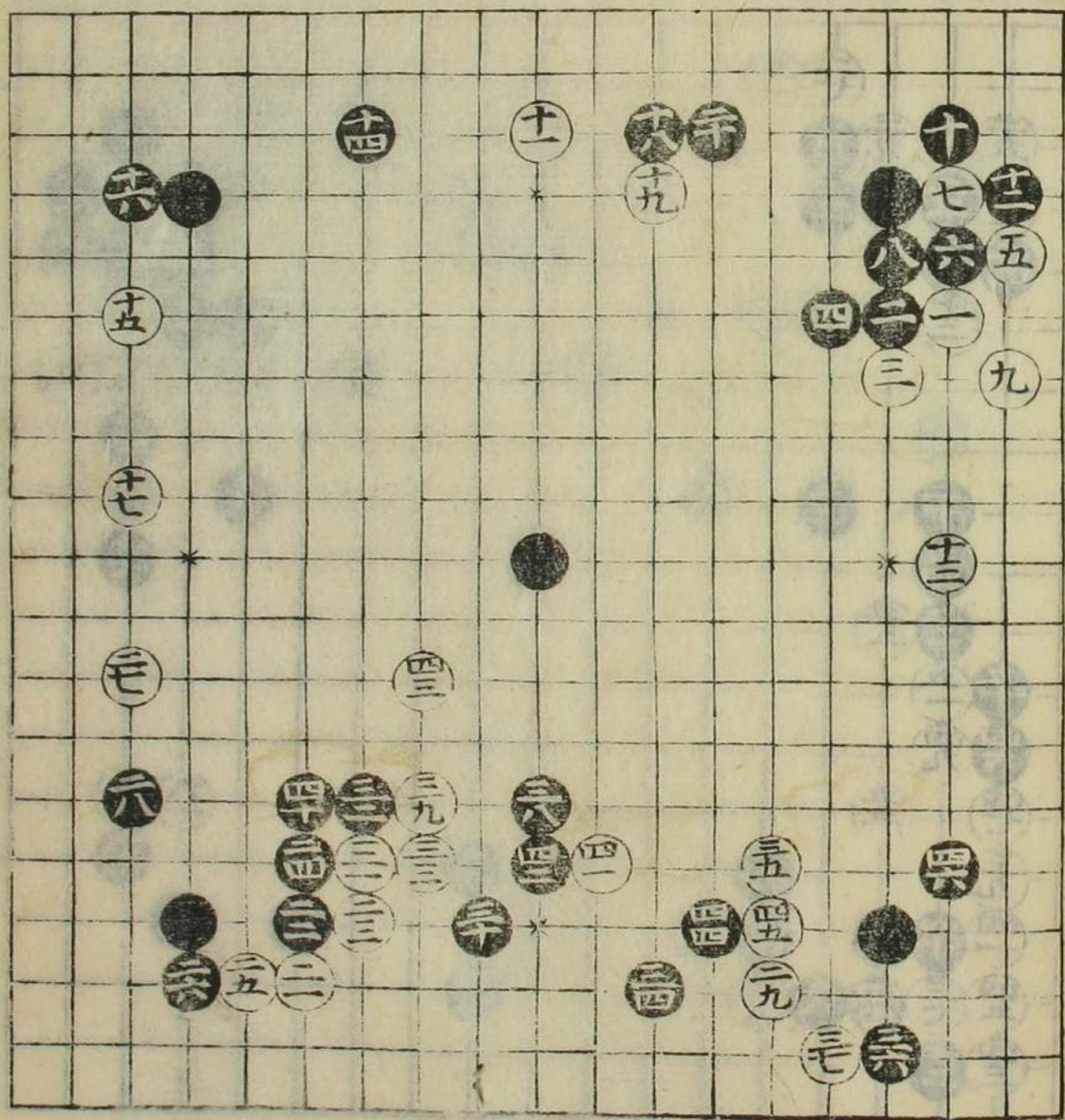
此石立白九枚  
より勢  
此石立黒乃ハ筋  
五枚  
十八枚



前星白十三枚  
 より移す  
 必強弱くても黒は  
 多し心は打たし  
 大位中々堅くお  
 あり二八三六のとき  
 ありて長かぬ多し  
 下りも面白し  
 考へて下

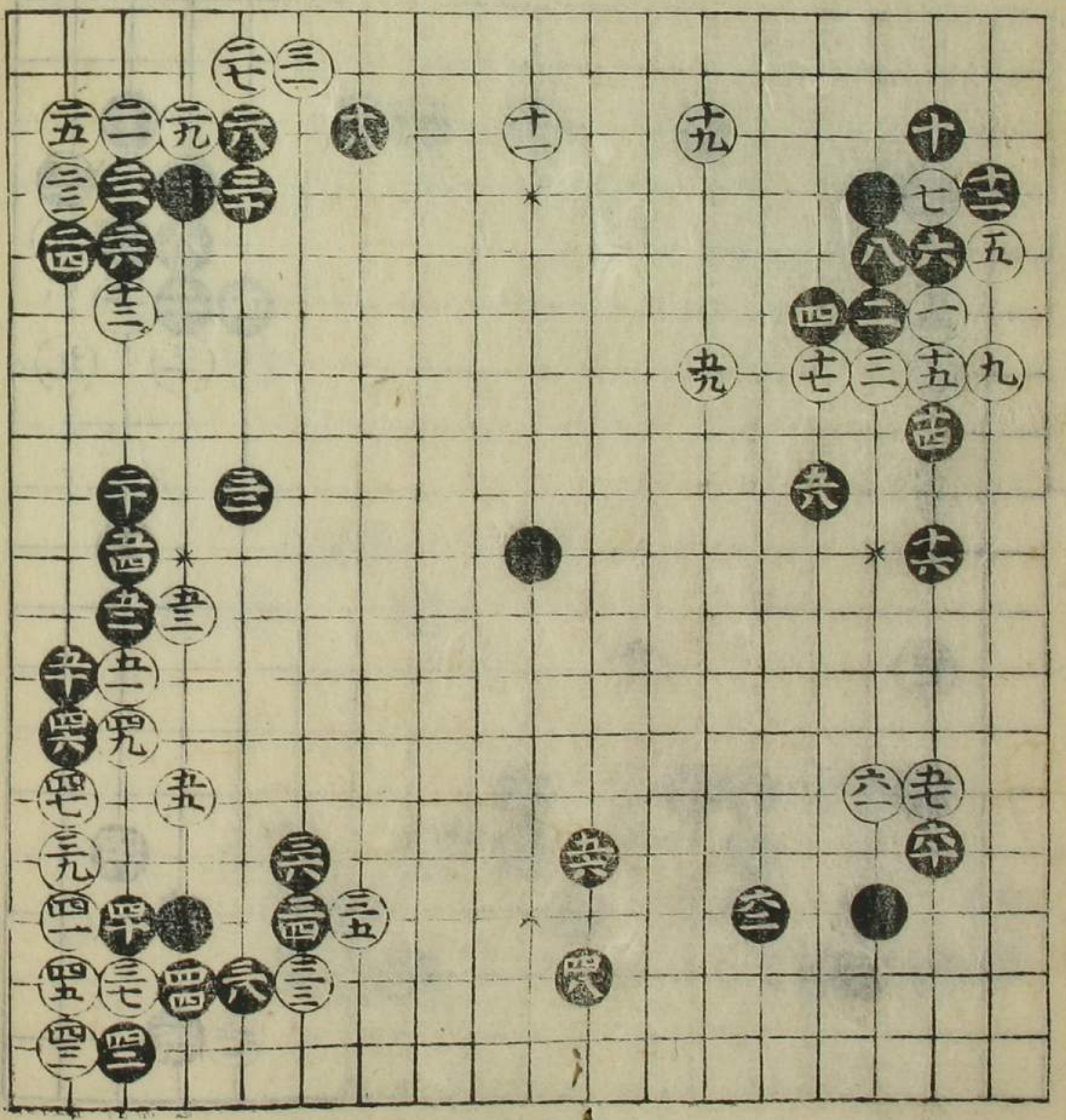


此石より四四と  
 のどき四六と打たし  
 堅給る四四乃も  
 考へ思へ此石より  
 四六と打たし後列  
 よ

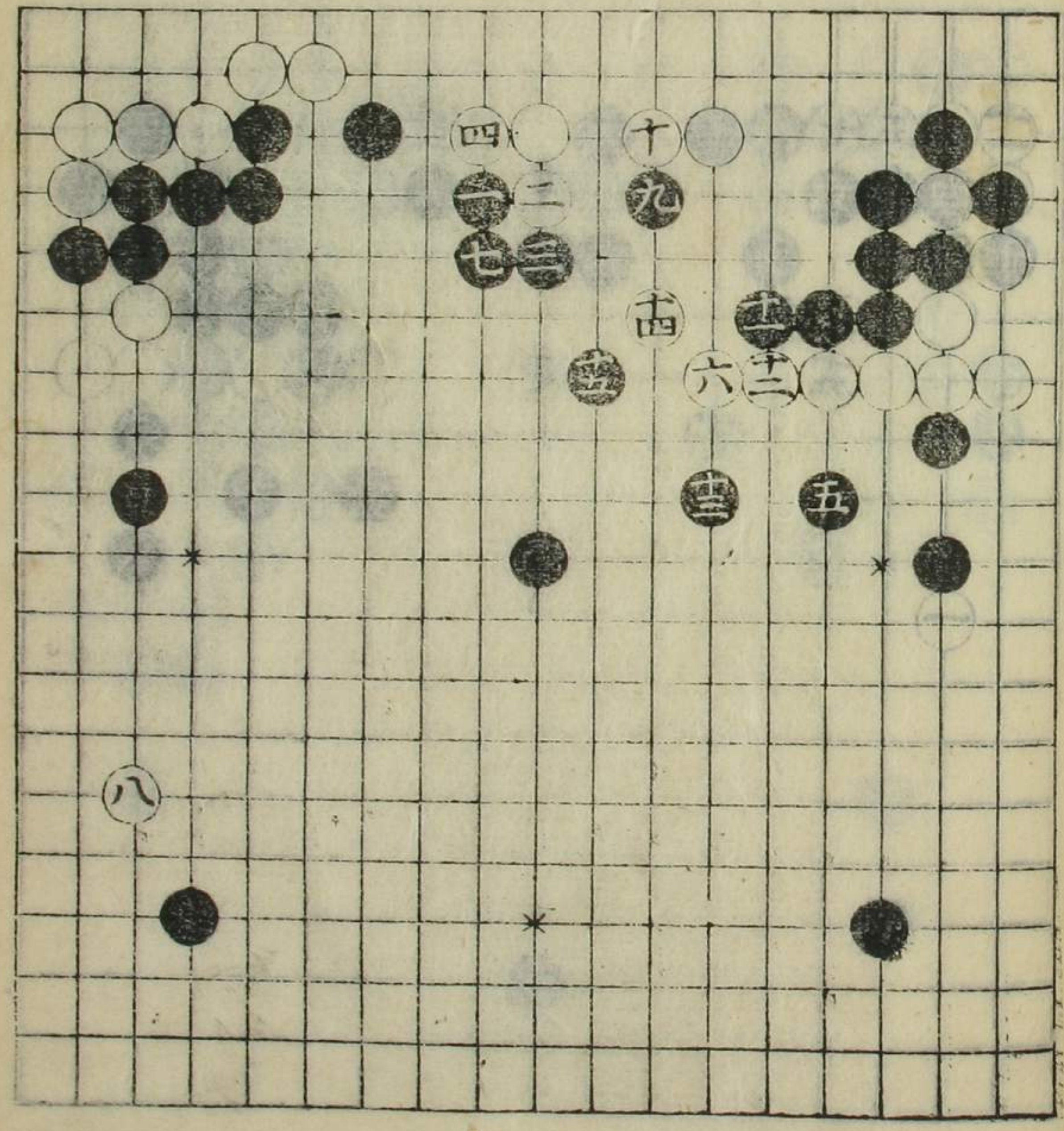


五目置之部

此石立治れなし  
三十と打とるを  
おぬりて黒位をお  
少世帯めくはし  
次は記を



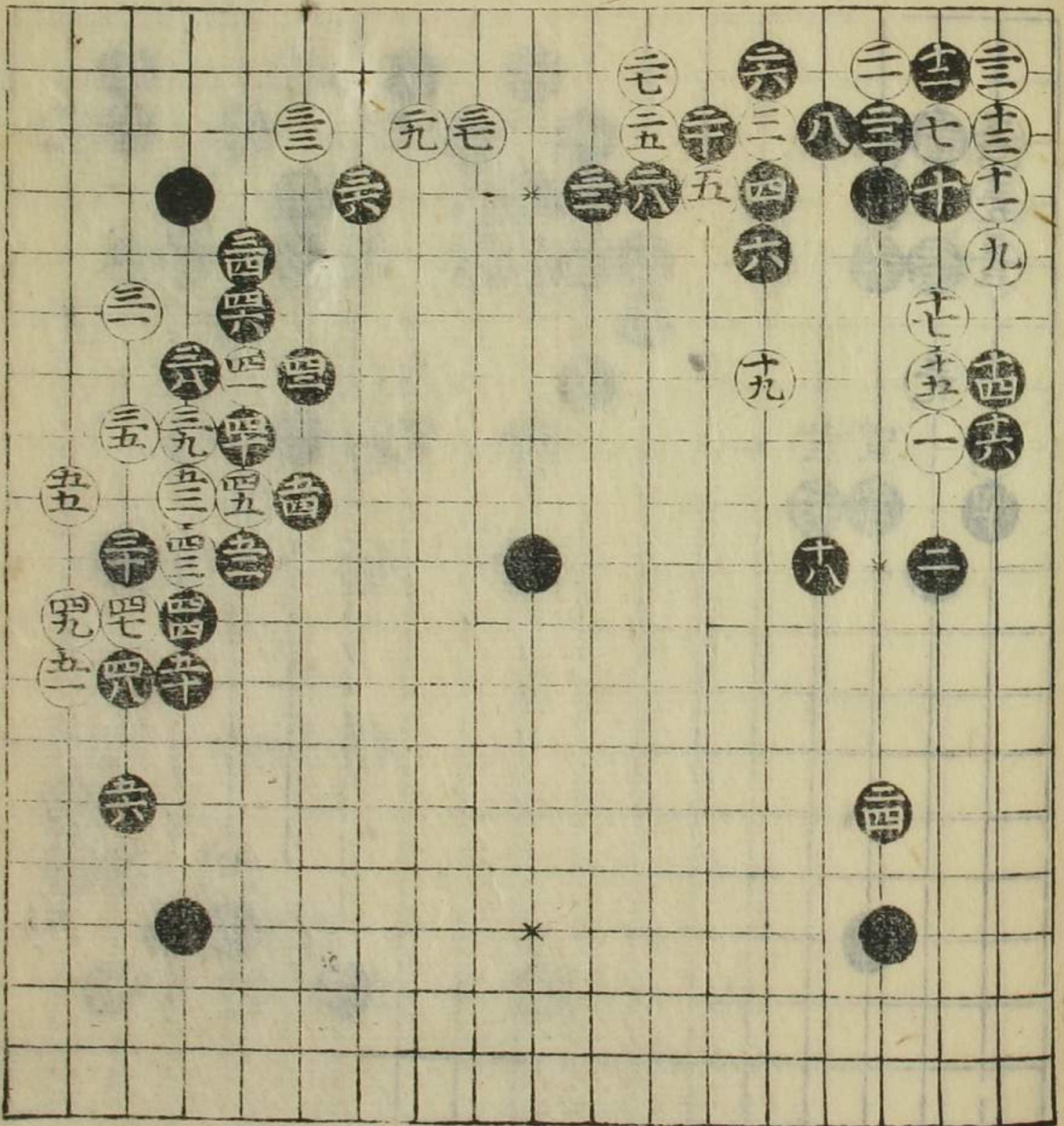
前巻黒三三のよ  
より勢を  
此勢りてハ黒本居  
一とぬりて位をおハ  
前のを後より増る  
十五石



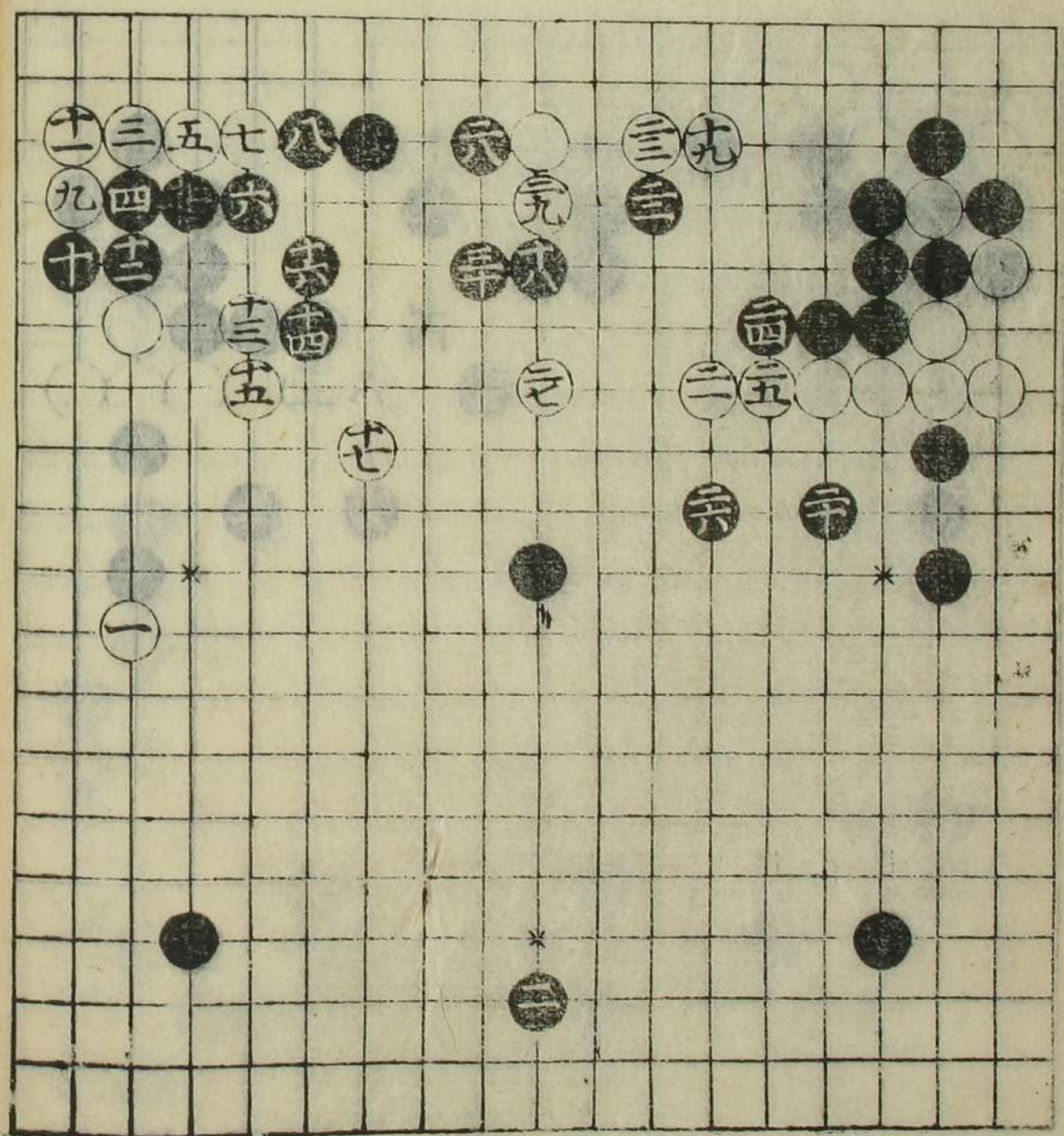
五目置之部

二二九

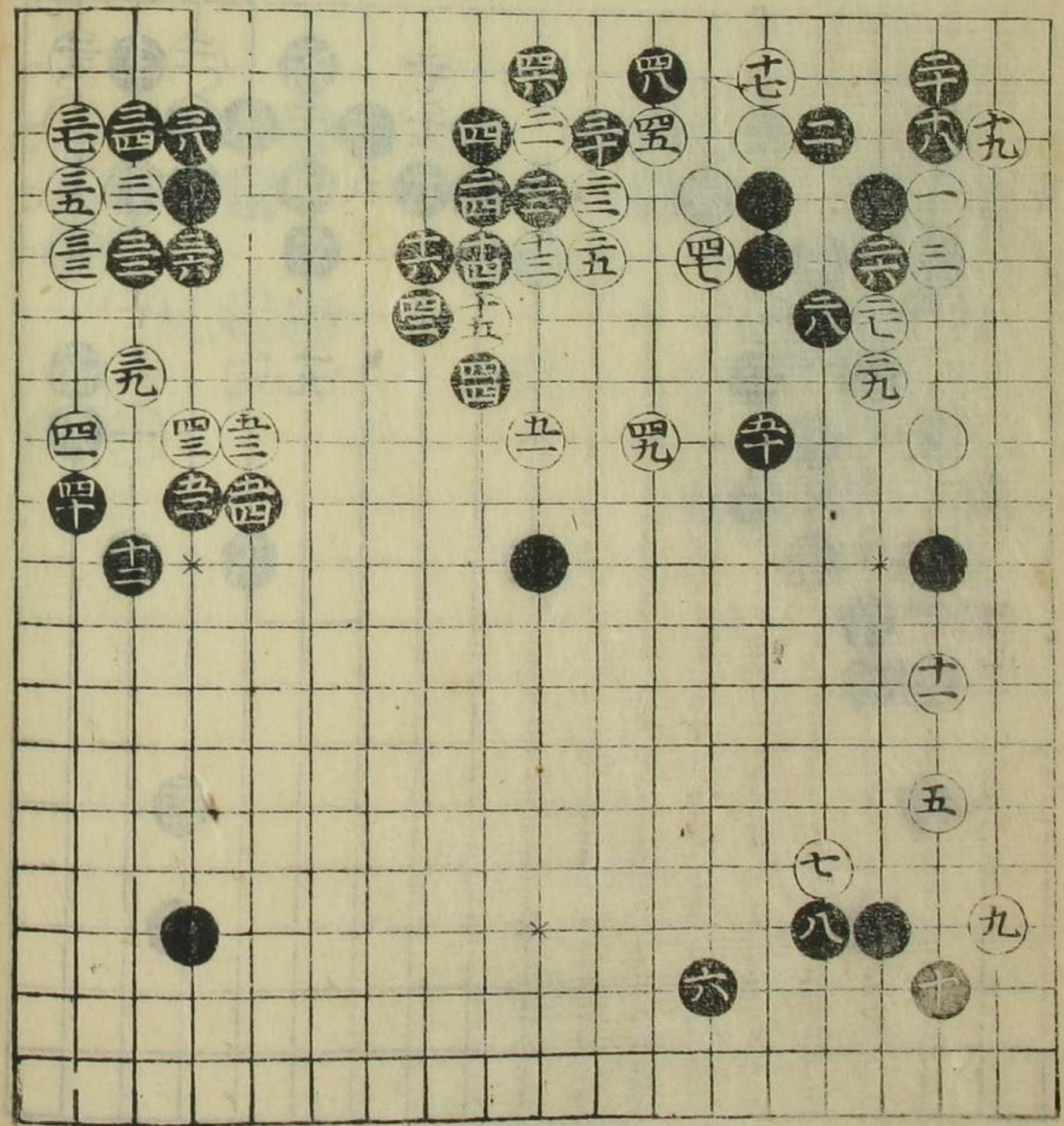
以石立懸あり手筋  
お徳珍まじり



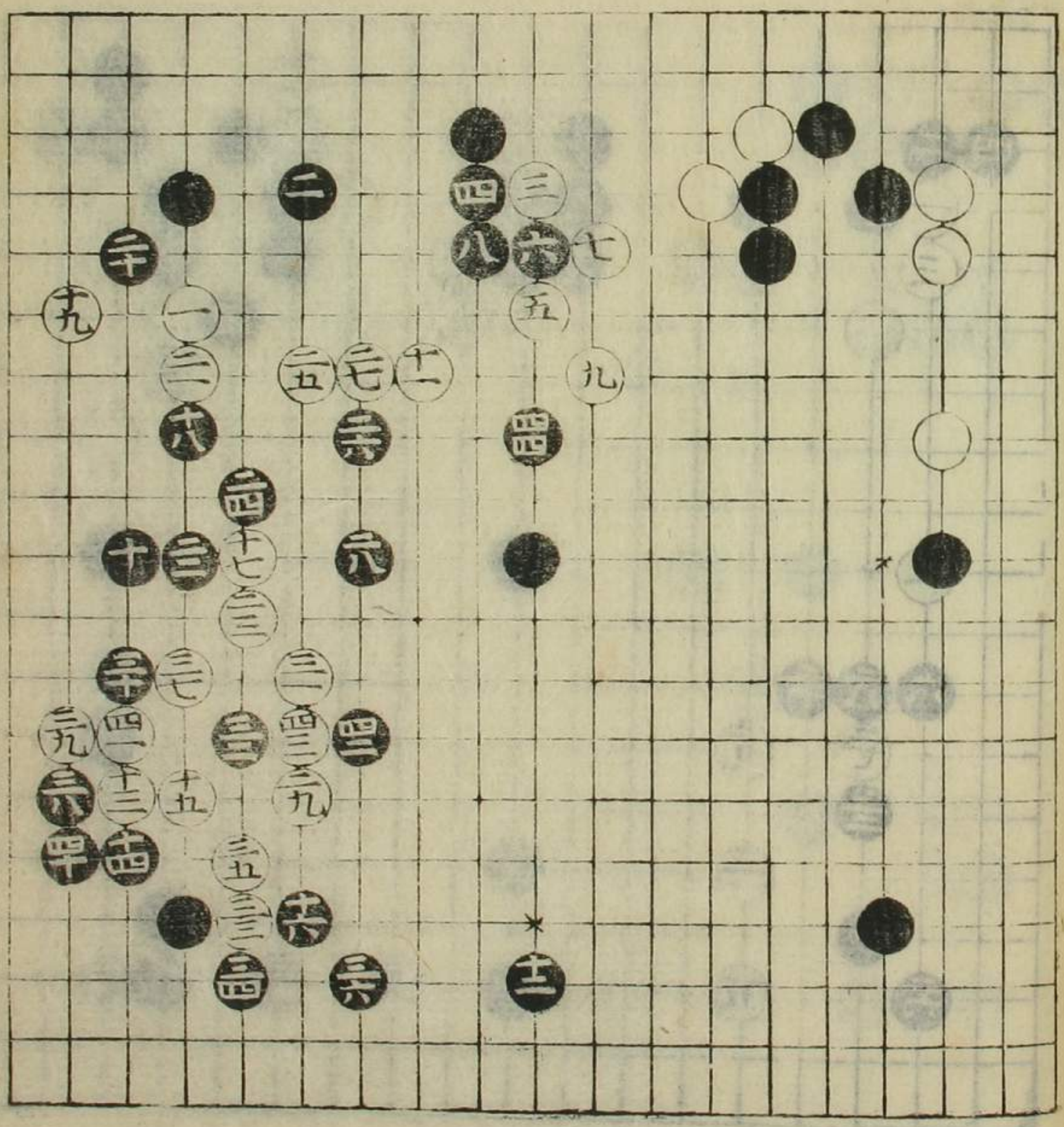
本星白十九けり  
より勢  
ぬん勢りても黒一筋  
越向白の方ふて一向  
流ま可打ちも筋か



花圖白七はより  
 勢り  
 此石を治まは黒  
 五二五四の厚く  
 一

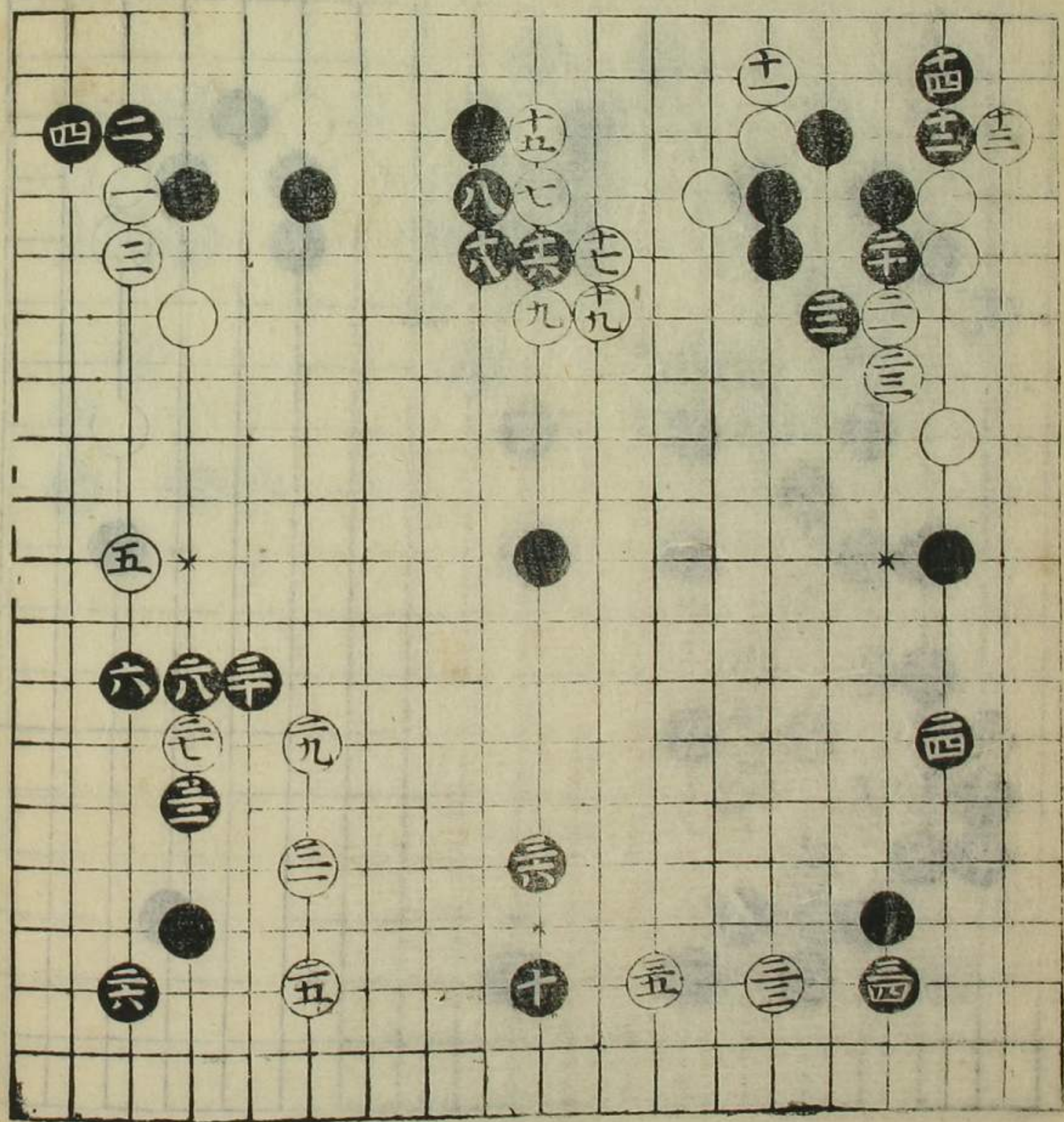


花圖白五はより  
 勢り  
 此石黒はは危南  
 一筋小敷中うぬ是  
 打し可んは決し  
 志く也

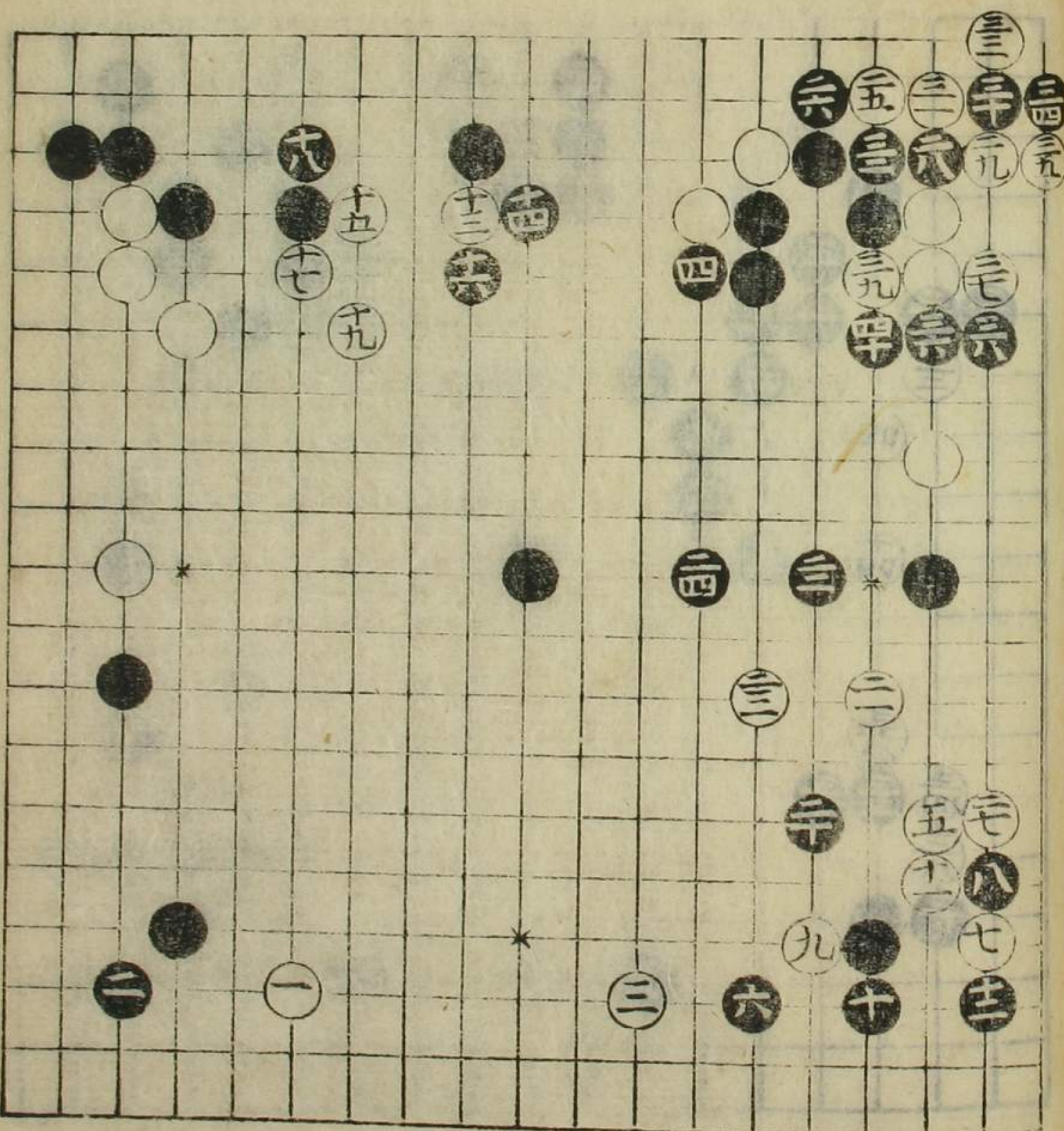


五目置之部

最白三石より  
 勢り  
 此はありてと一白  
 流きたり。鬼角中へ  
 をむ。白の白の  
 一と位を取ると不  
 能



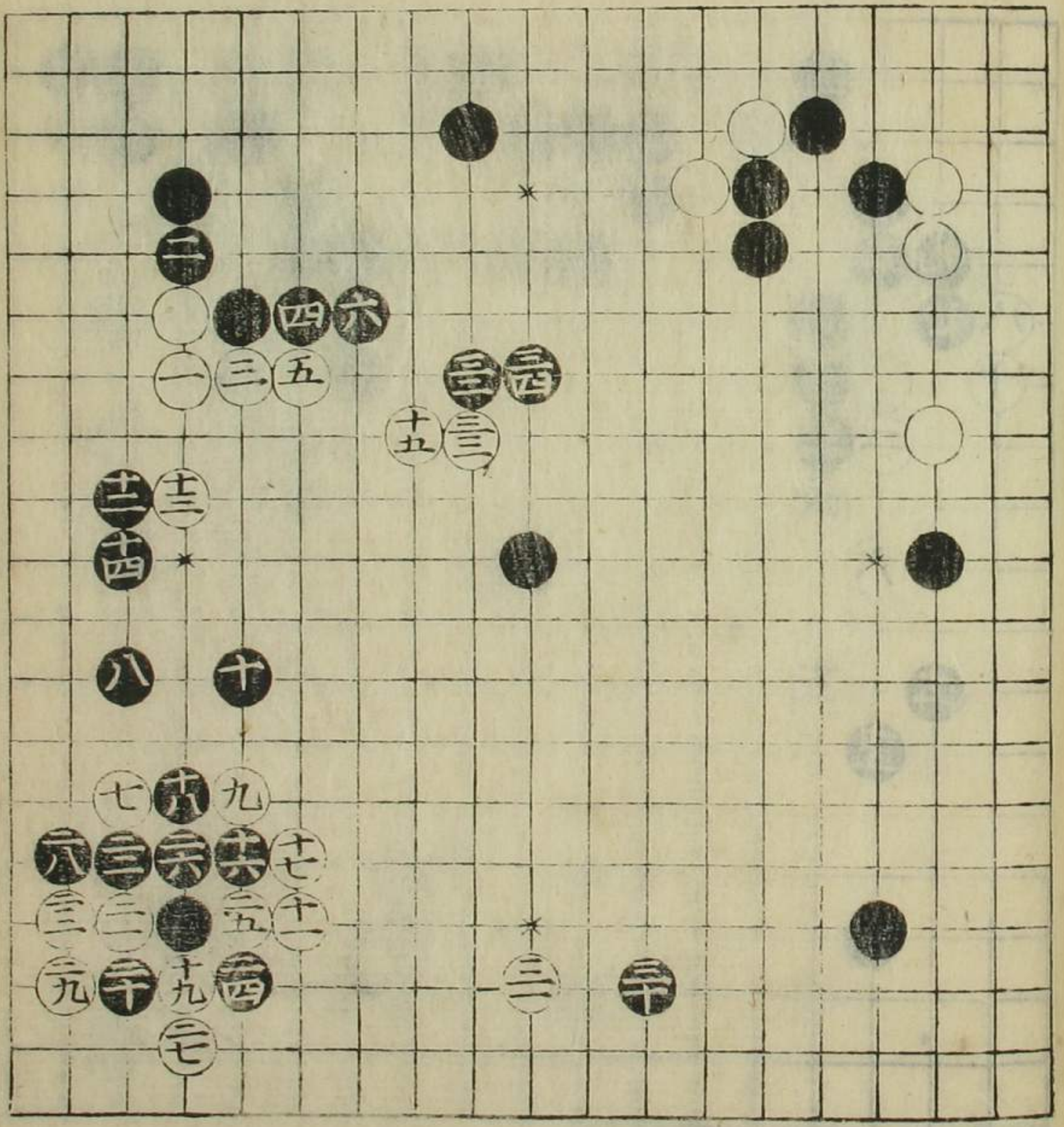
最白七石より  
 勢り勢り  
 此はありてと一白より  
 打ち上げ振る



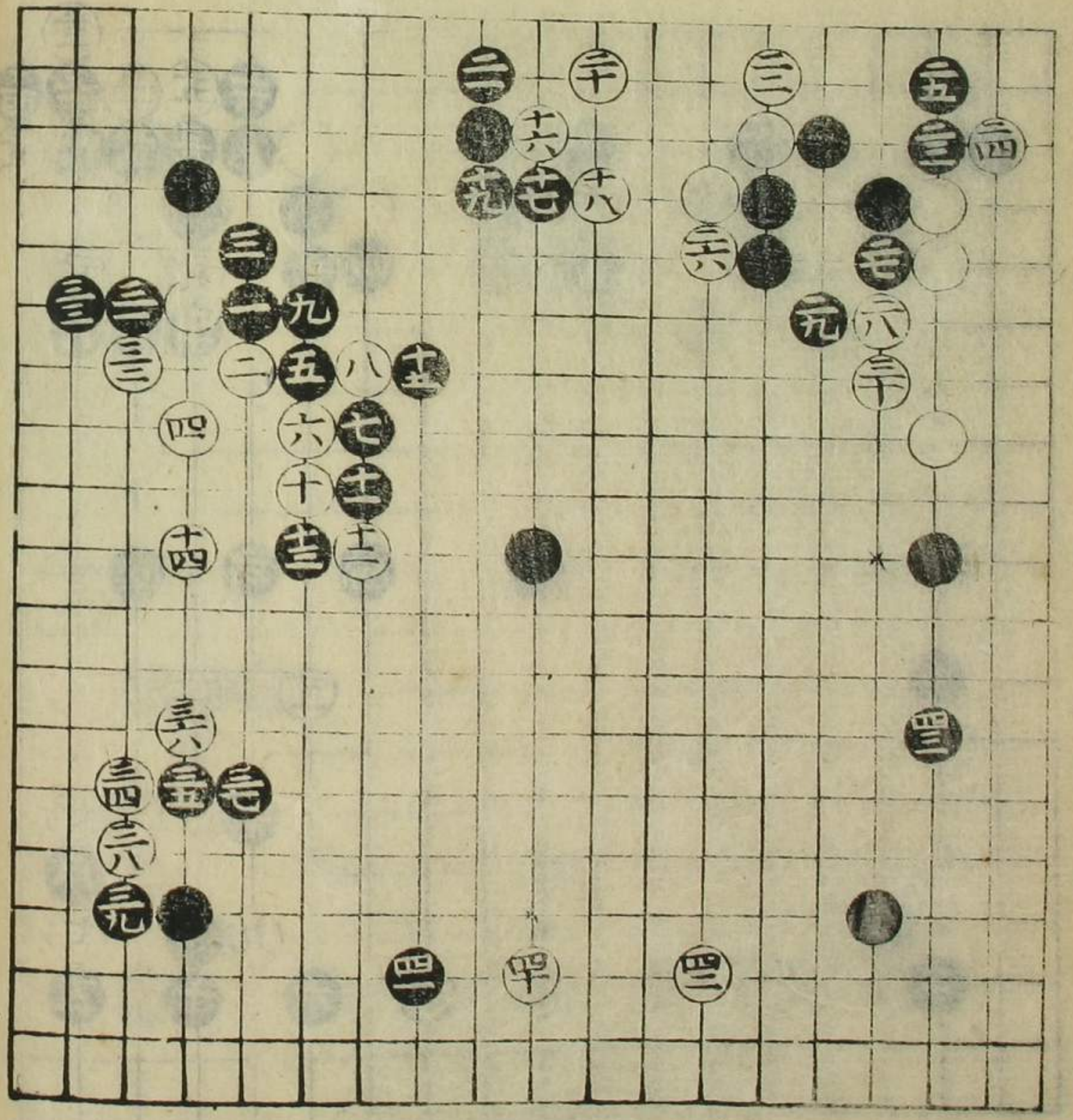
五目置之部



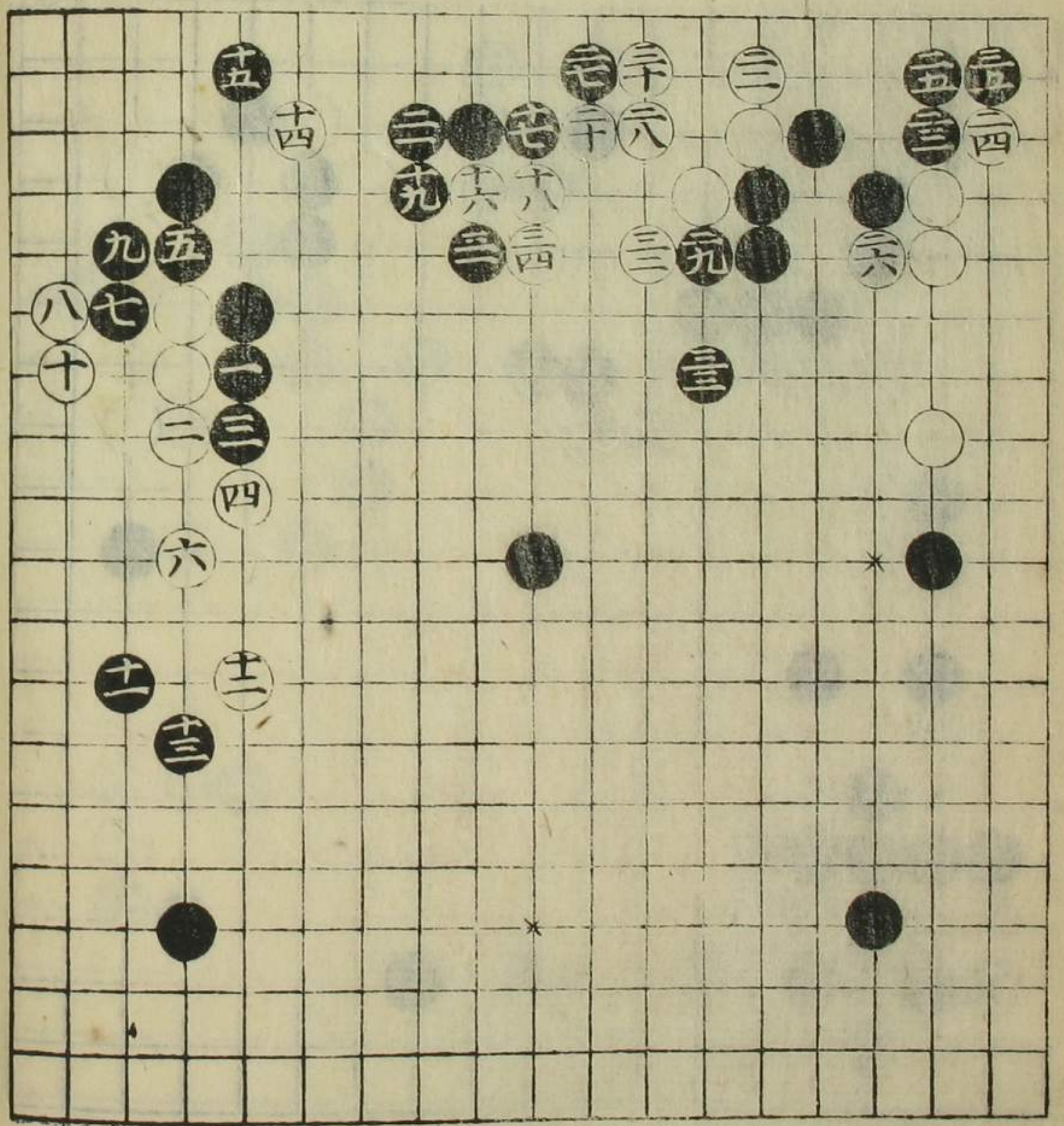
此局白二枚より  
勝る  
此局は最大位小く  
置くは白ありは  
なり



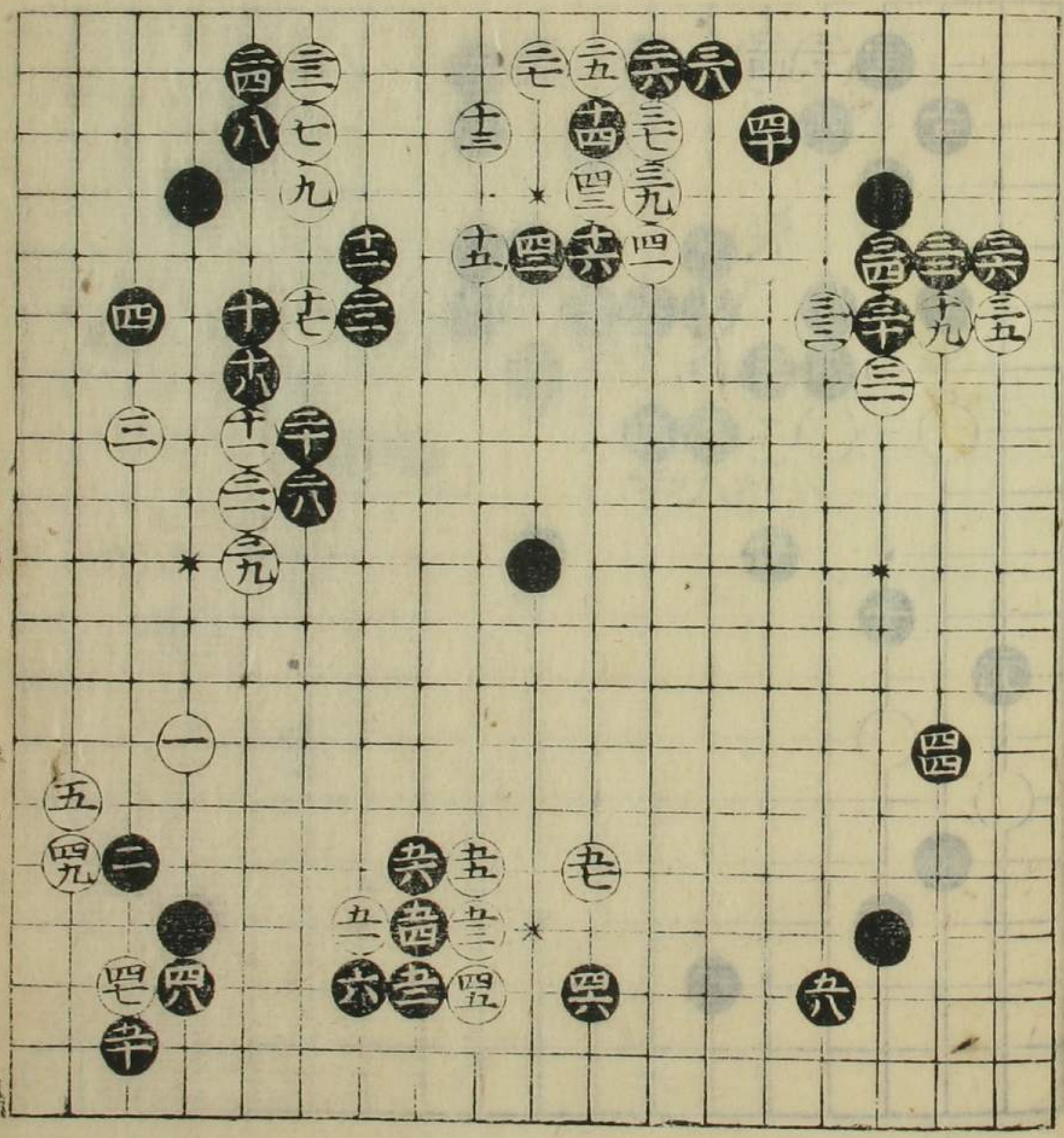
此局より二番目以上  
二のより勝る。  
此局より同後ふも  
白ありは勝るなり



此石立湯まをし衣  
 寄り二十枚手好し  
 次は死黒五十二角堅  
 左丸新打也五六子白  
 此五七打白黒の五  
 六打を三死五八と  
 打をう



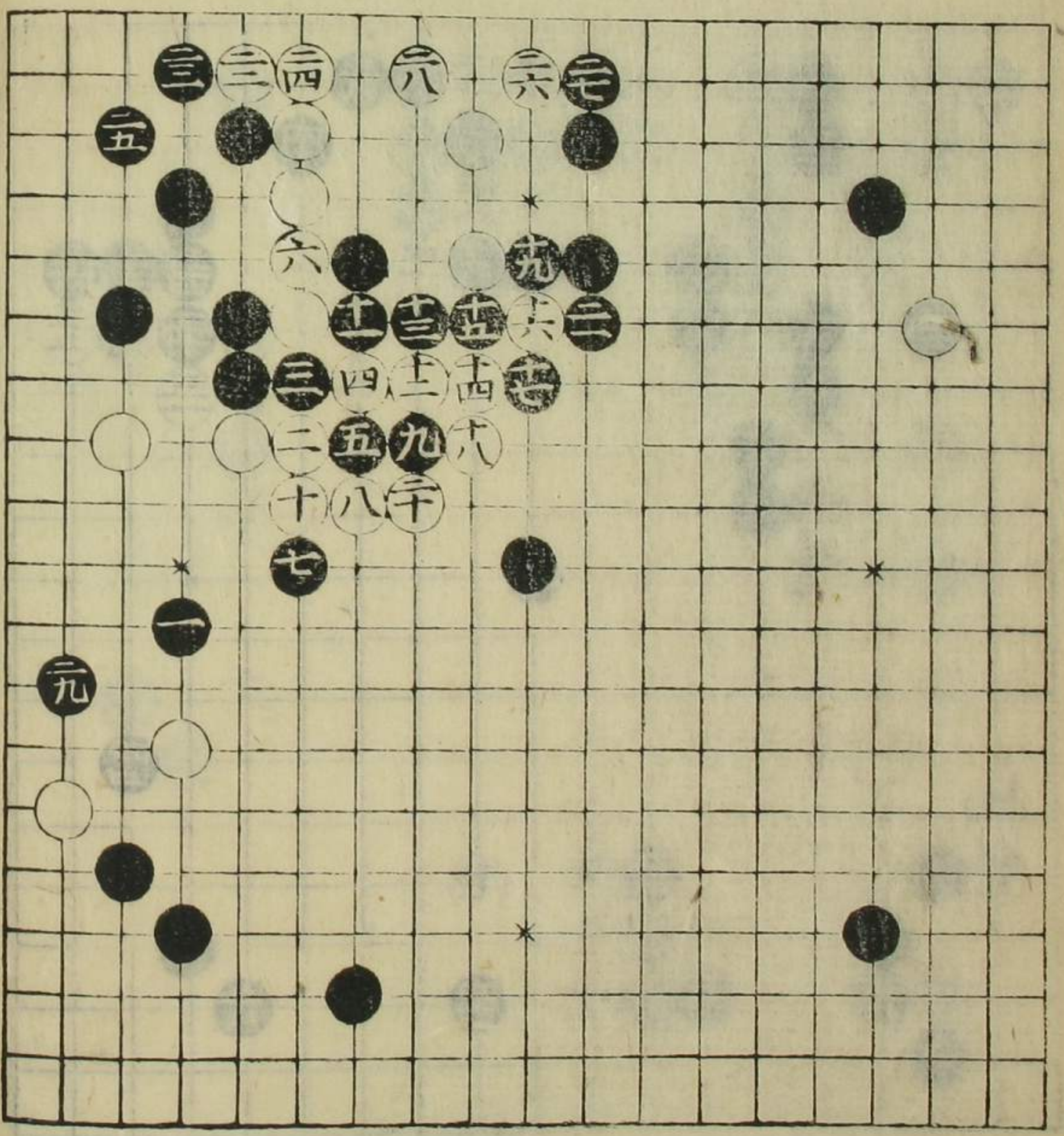
此石立湯まをし衣  
 寄り二十枚手好し  
 次は死黒五十二角堅  
 左丸新打也五六子白  
 此五七打白黒の五  
 六打を三死五八と  
 打をう



五目置之部

三十一日

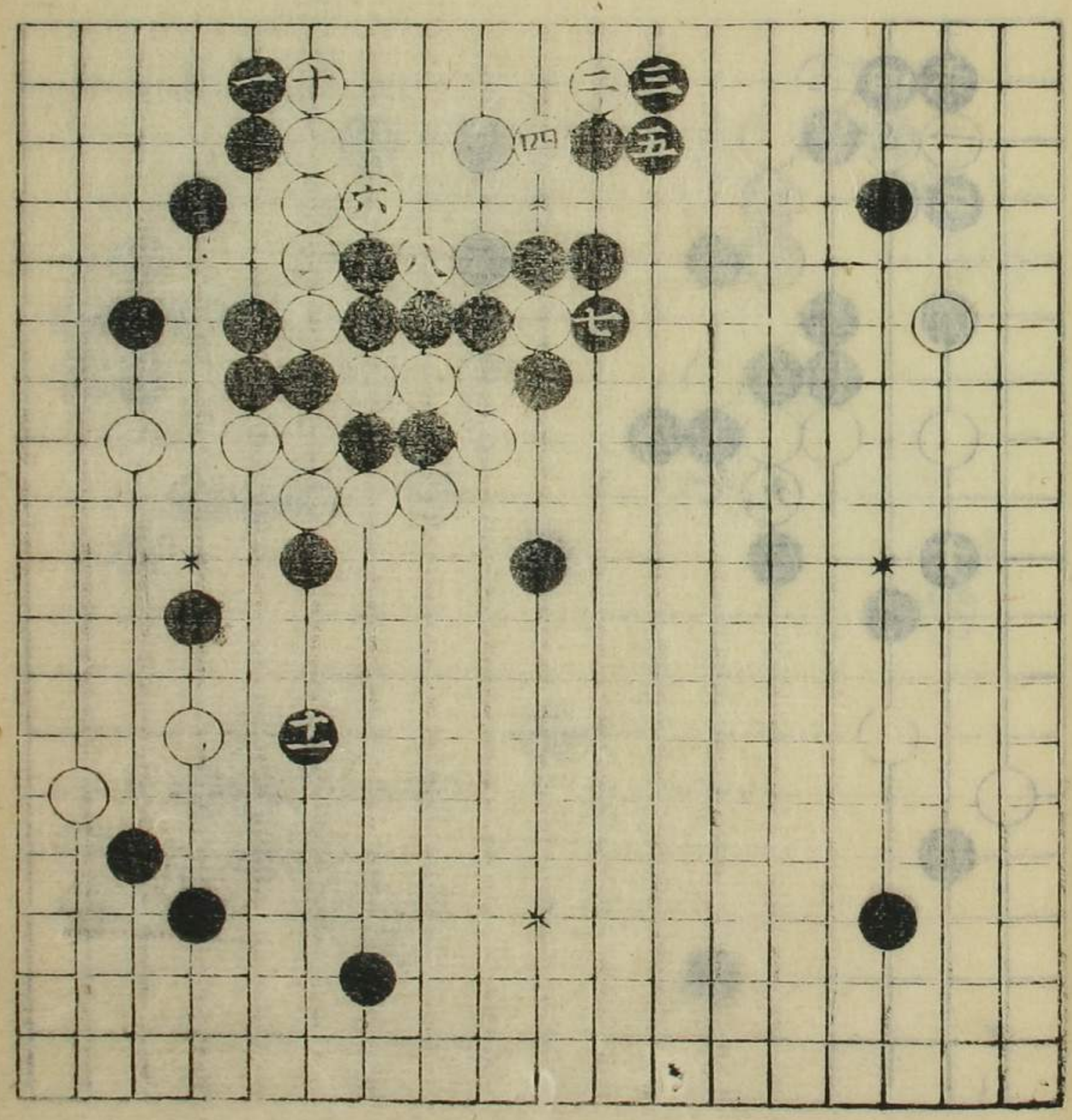
本墨黒二十の手  
より移る  
ぬきゆくもと黒  
二の手移れはたけ



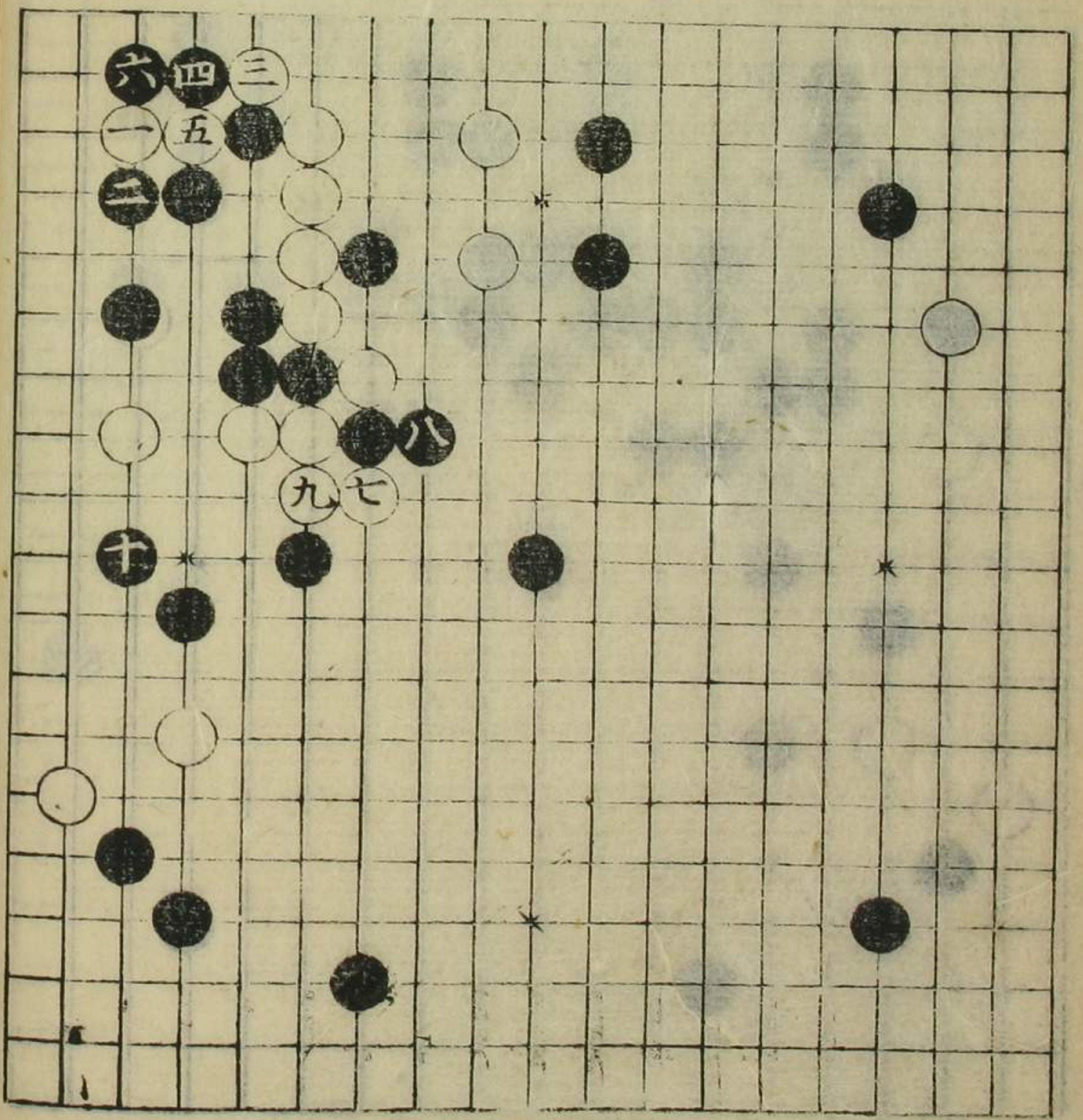
本墨黒二十の手  
より移る

● 九  
▲ 九

五目置之部

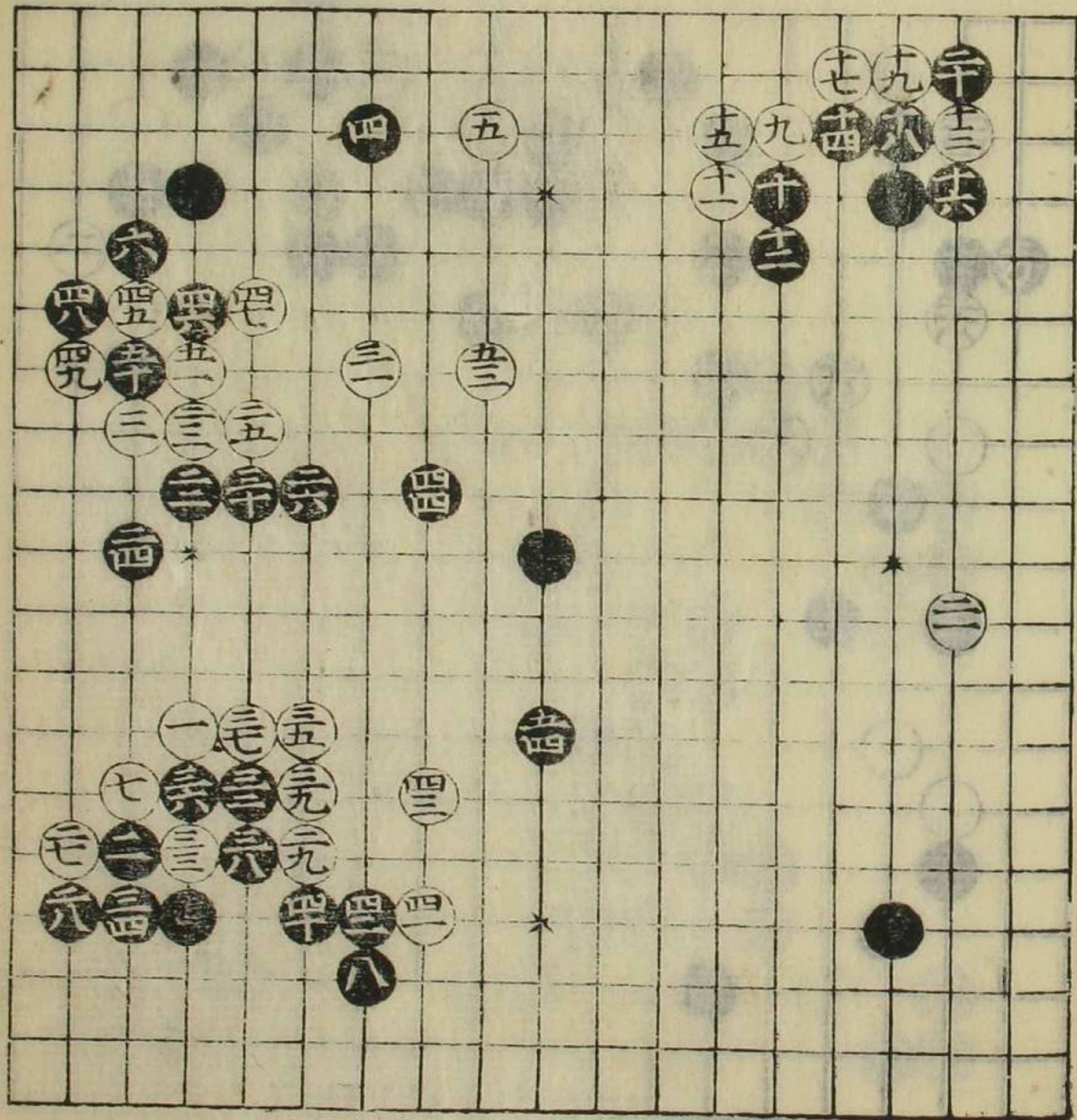


本堂白八のあり  
 勢  
 白角打込めする  
 三三六と打く者  
 自れおろすに依て種々  
 おろすあり石五置き  
 已現はるるおのほろ  
 ぶまを打てとおれ  
 老るるんぬ



黒十六は少しぬ  
 一は去ぬ是あり  
 てと給なり勢  
 次

五  
 指

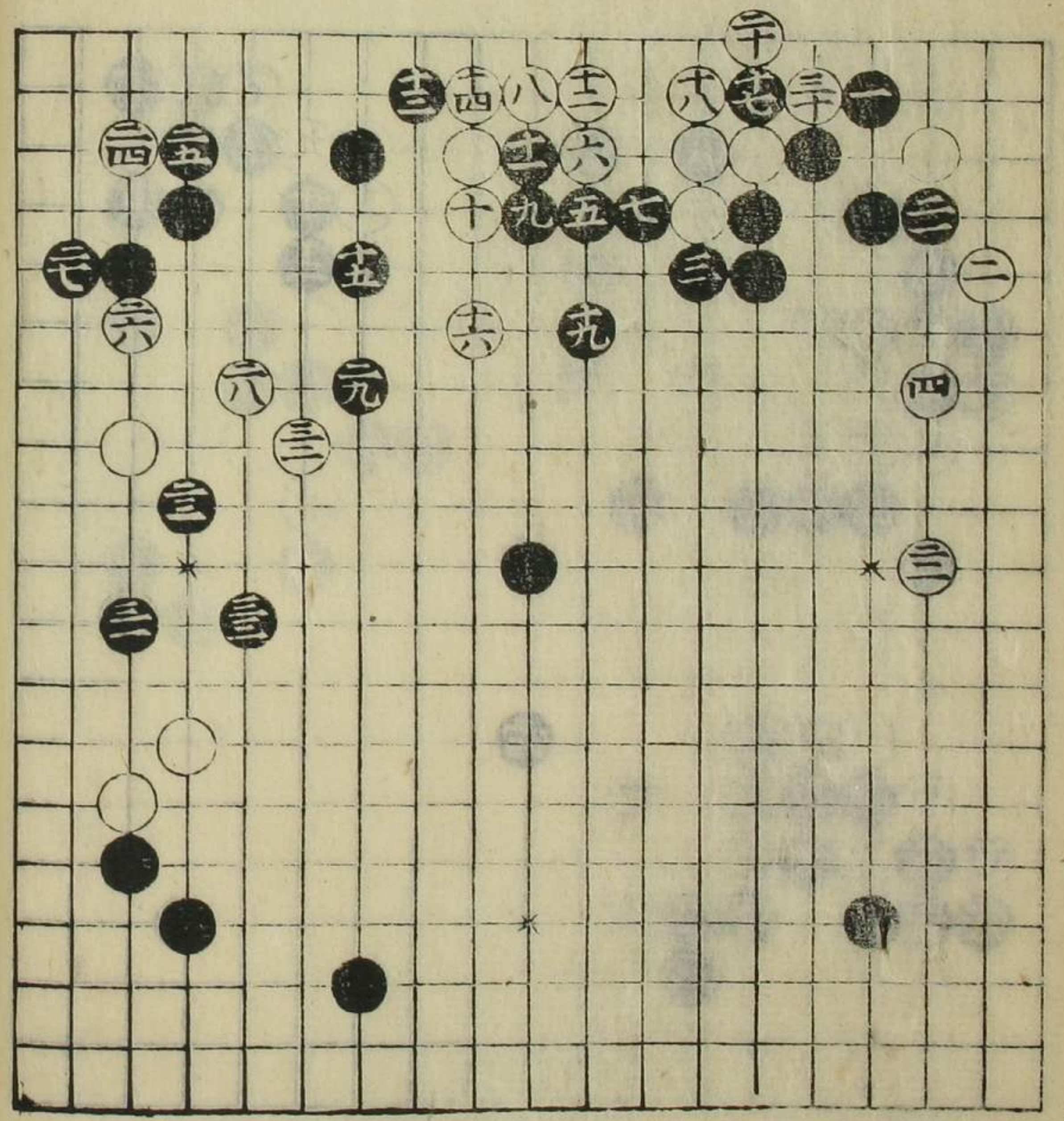


五目置之部

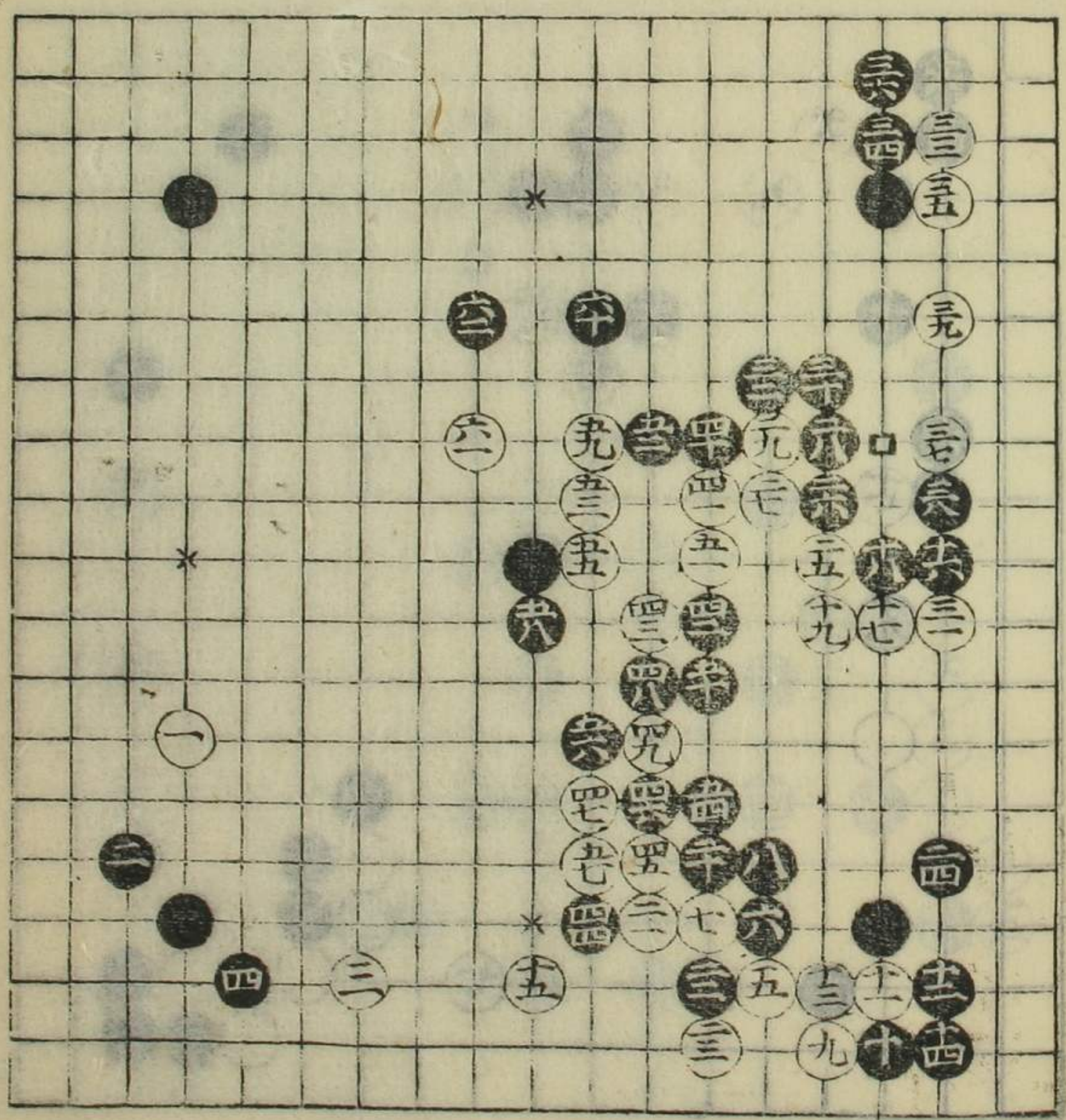
三十一

三十一

元星黒十六は  
 より勢  
 ぬきちて八白決  
 死たう黒漸く強か  
 り後ちういひは  
 三のよじ左在法  
 ちうりい極まきま

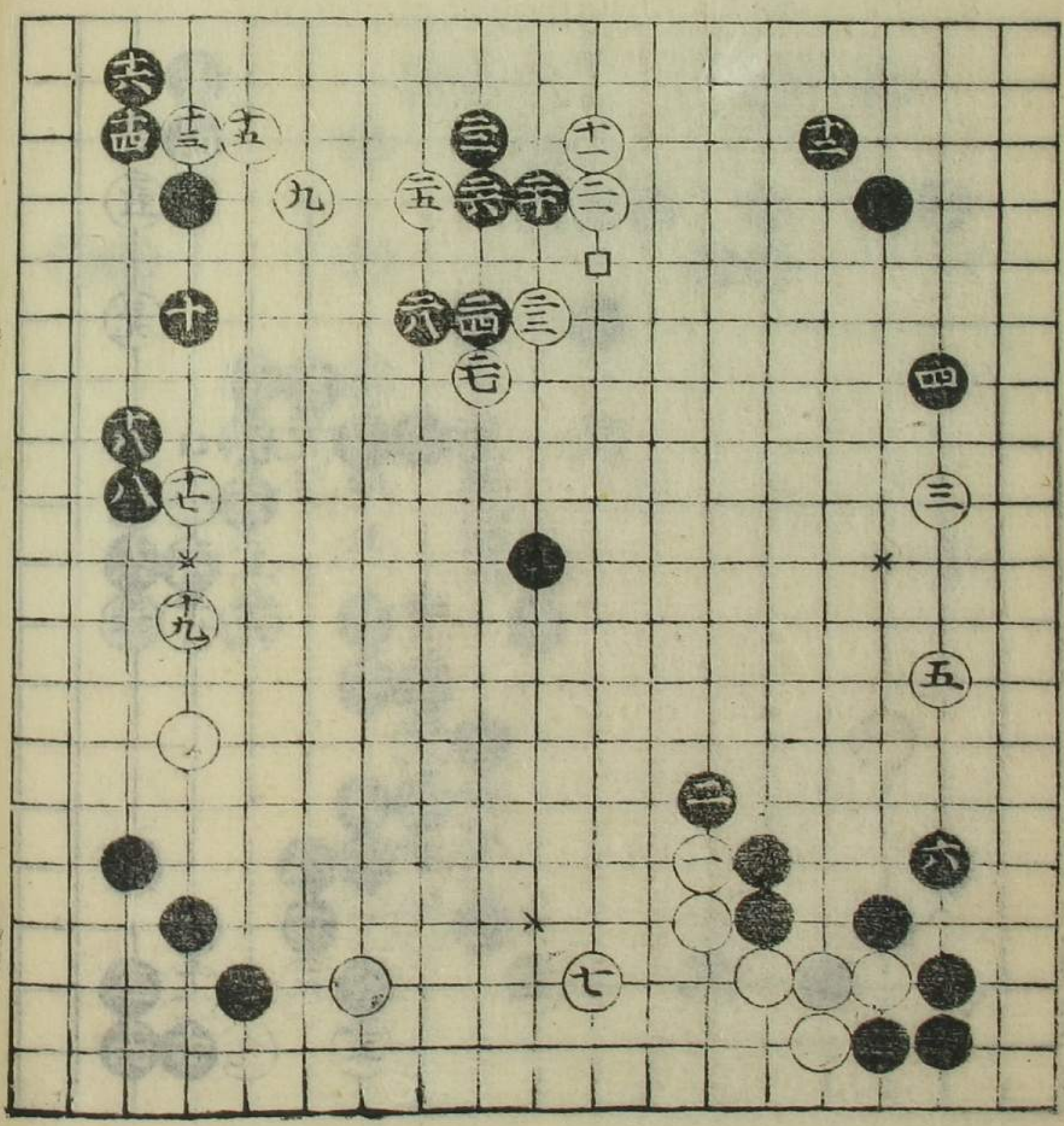


世石立を法く大位  
 元星黒十六は  
 番毎に口下二間  
 飛ぶはたつて後  
 打附ハ二間すくお  
 よし四十と歩四一  
 おせのそきより  
 ちうりい極まきま  
 ちうりい極まきま

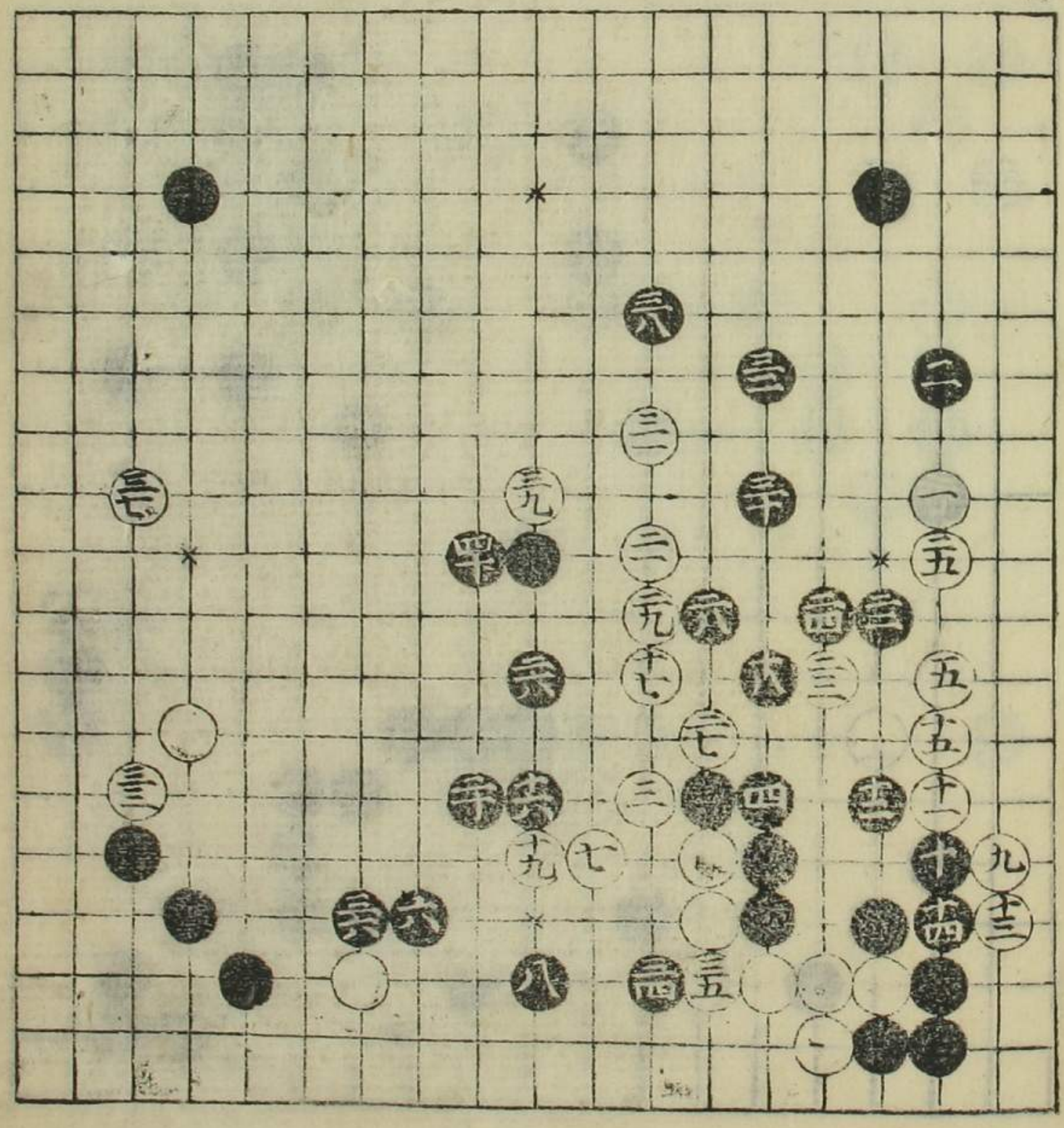


五目置之部

前番黒十五れ  
 あり勢  
 此石五勢り黒大よ  
 と一黒二八の口  
 中今もして方方も存  
 何れもても一命はれ  
 なり白打ふ言  
 のとあり



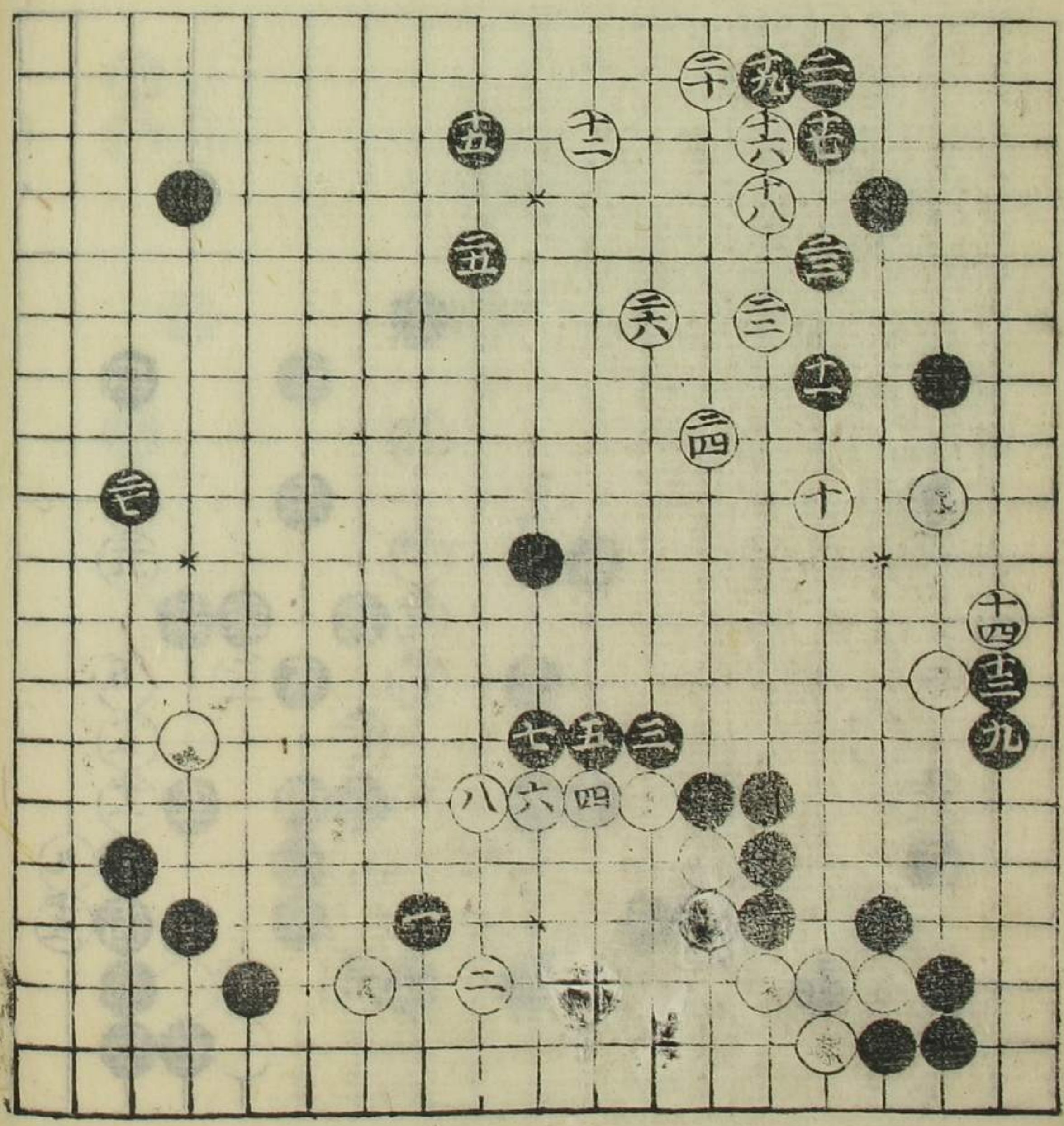
前番白五れより  
 あり  
 此勢り黒め世打附ハ  
 ありし黒の八の白  
 ありハ三七れ白の  
 あらう一勢は黒はし  
 白三三とあるまを  
 黒も三四三六とあり  
 ありしありはんあり  
 ありしありはんあり



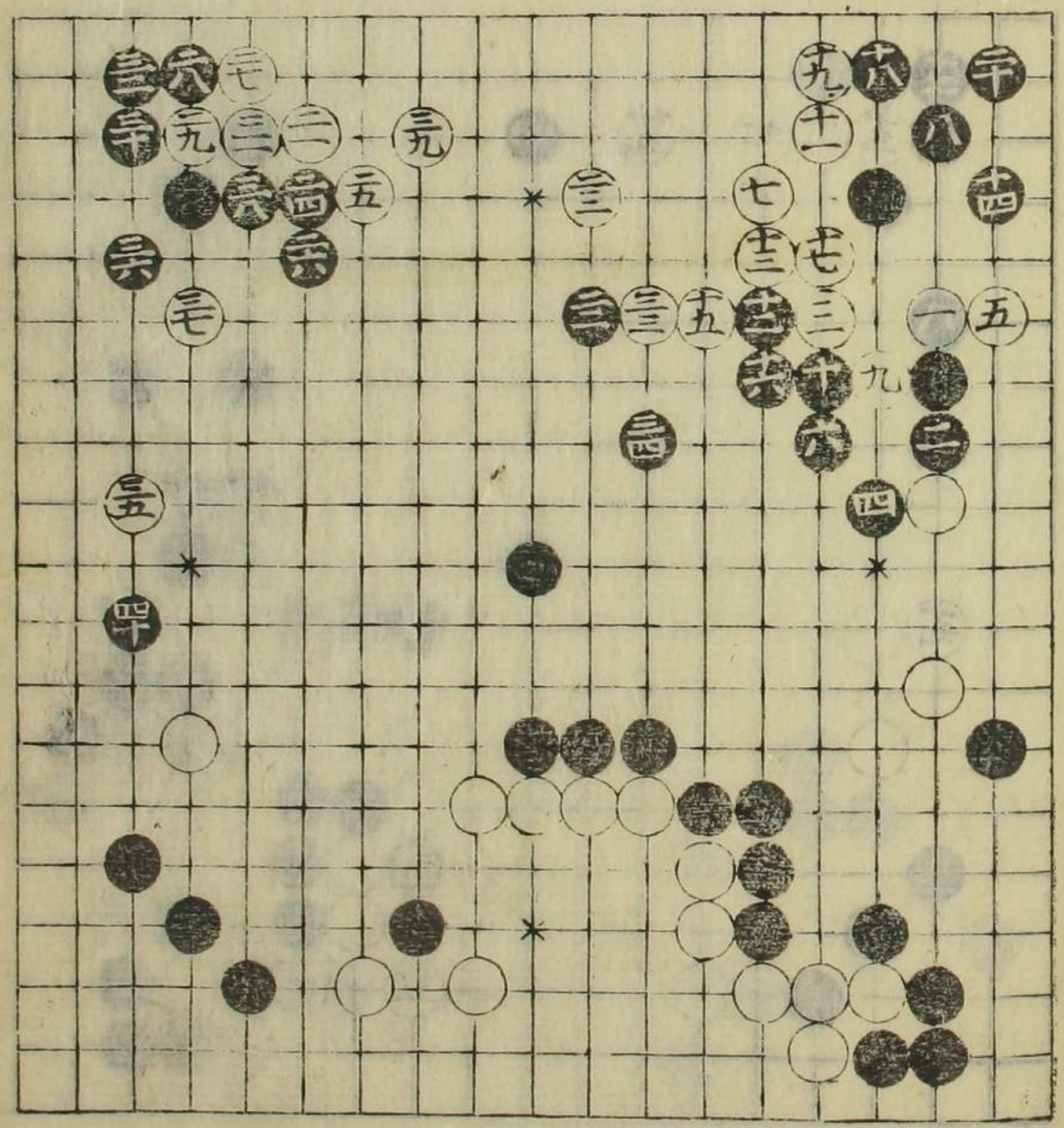
五目置之部

三十八

前星白七此より  
 移り  
 此移り黒盤く女々  
 右三の押ある故九と  
 白をせうとく打ち  
 移りの本星を此  
 外移り打ちく不  
 一と八上の押の両面  
 くるすんゆ可打ち  
 ぬりすなうとく



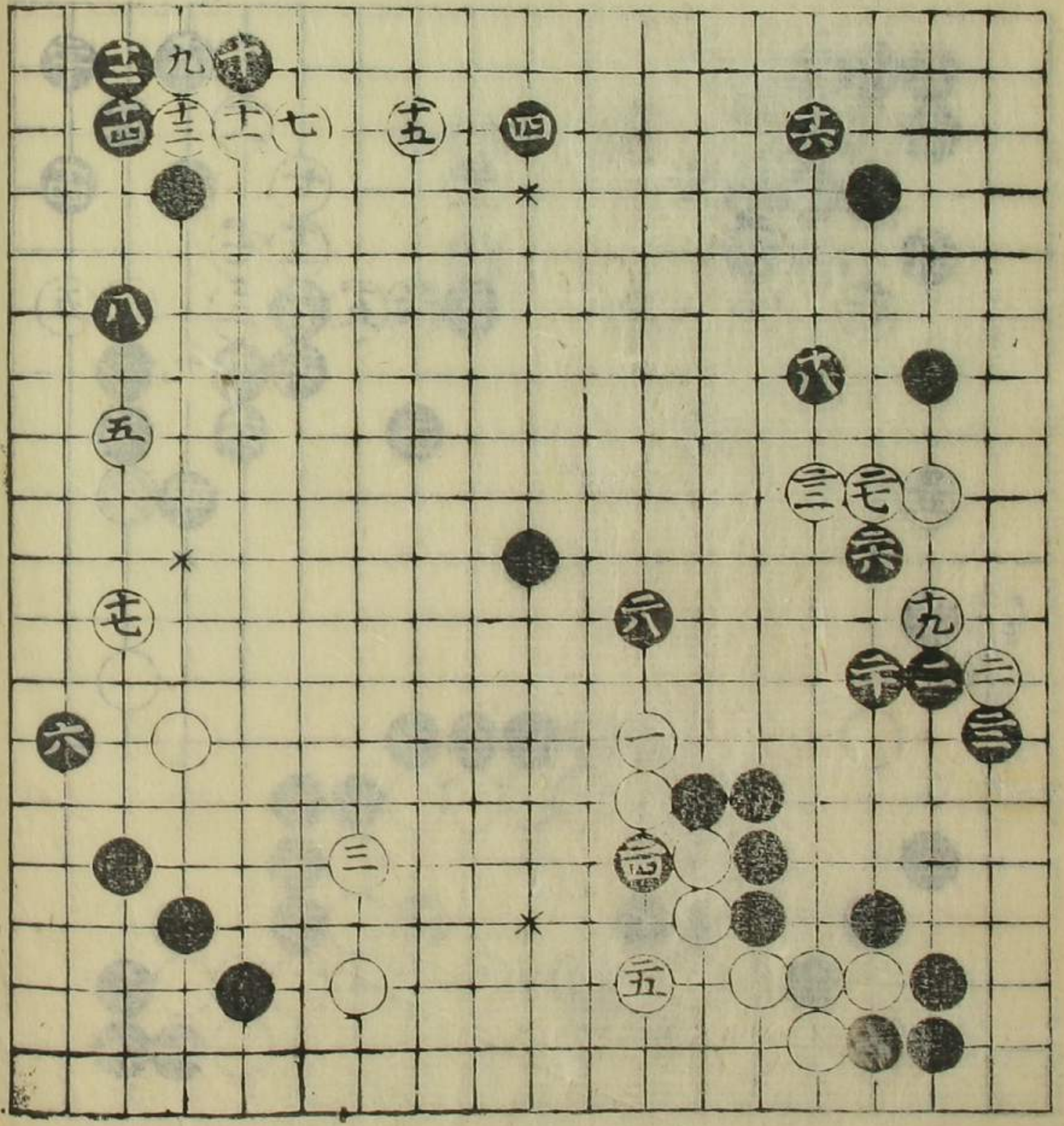
前星白十此より  
 移り  
 以移り二と打ち黒六  
 右位小打ちの才也  
 白三七打ち外を打ち  
 白此二五の星有て打ち  
 右三七と白せの  
 打ちありおとす  
 打ちへうとす



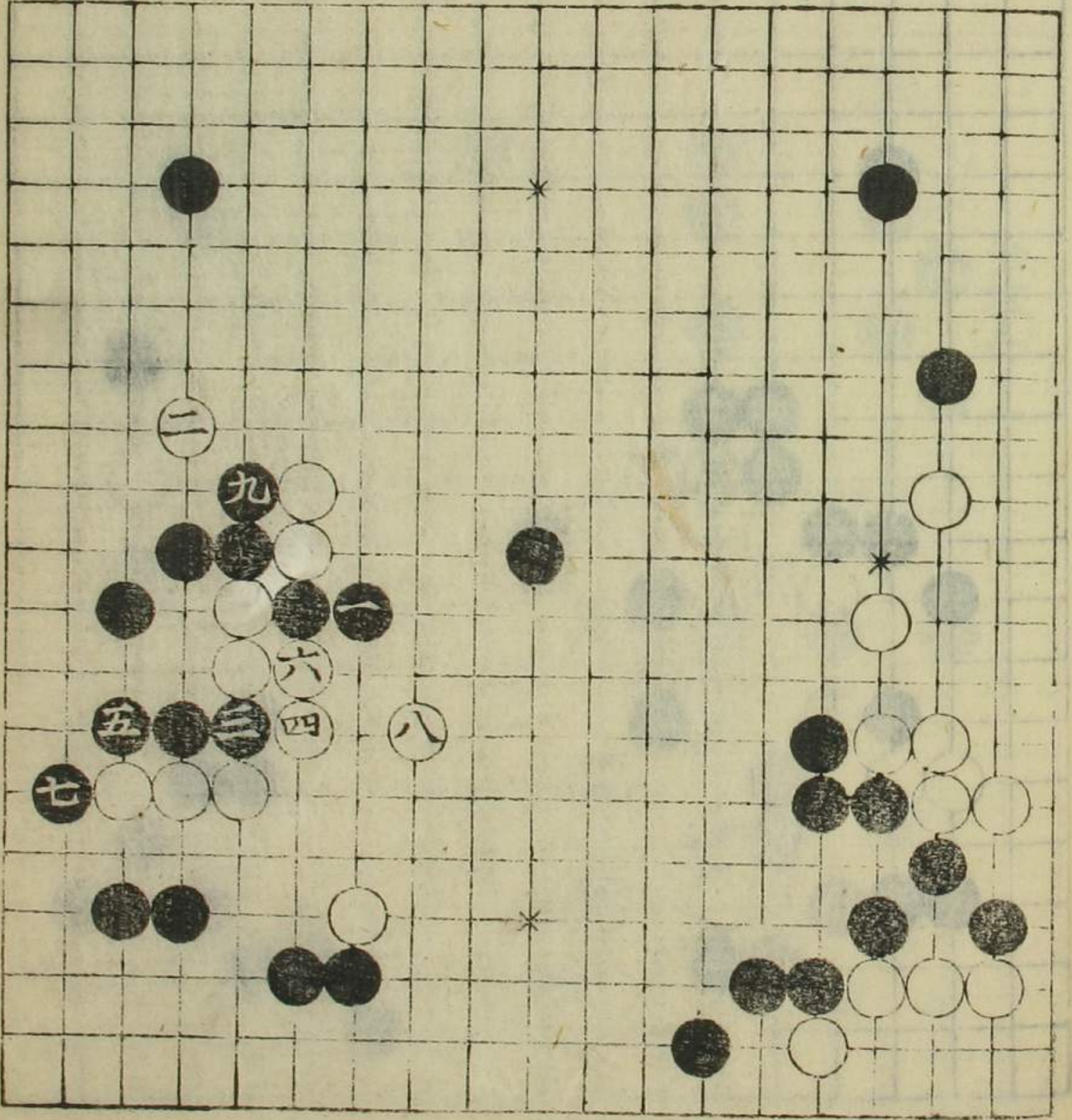
五目置之部

三十一

本道より二番目れ白  
 五のよりより勢り  
 勢り勢り黒亦如  
 是勢り勢り六  
 の手勢り勢り白  
 再び、若十八番二八  
 左に開く、心は  
 折急、せう、は  
 しく、白、あ、あ  
 本道より二番目れ



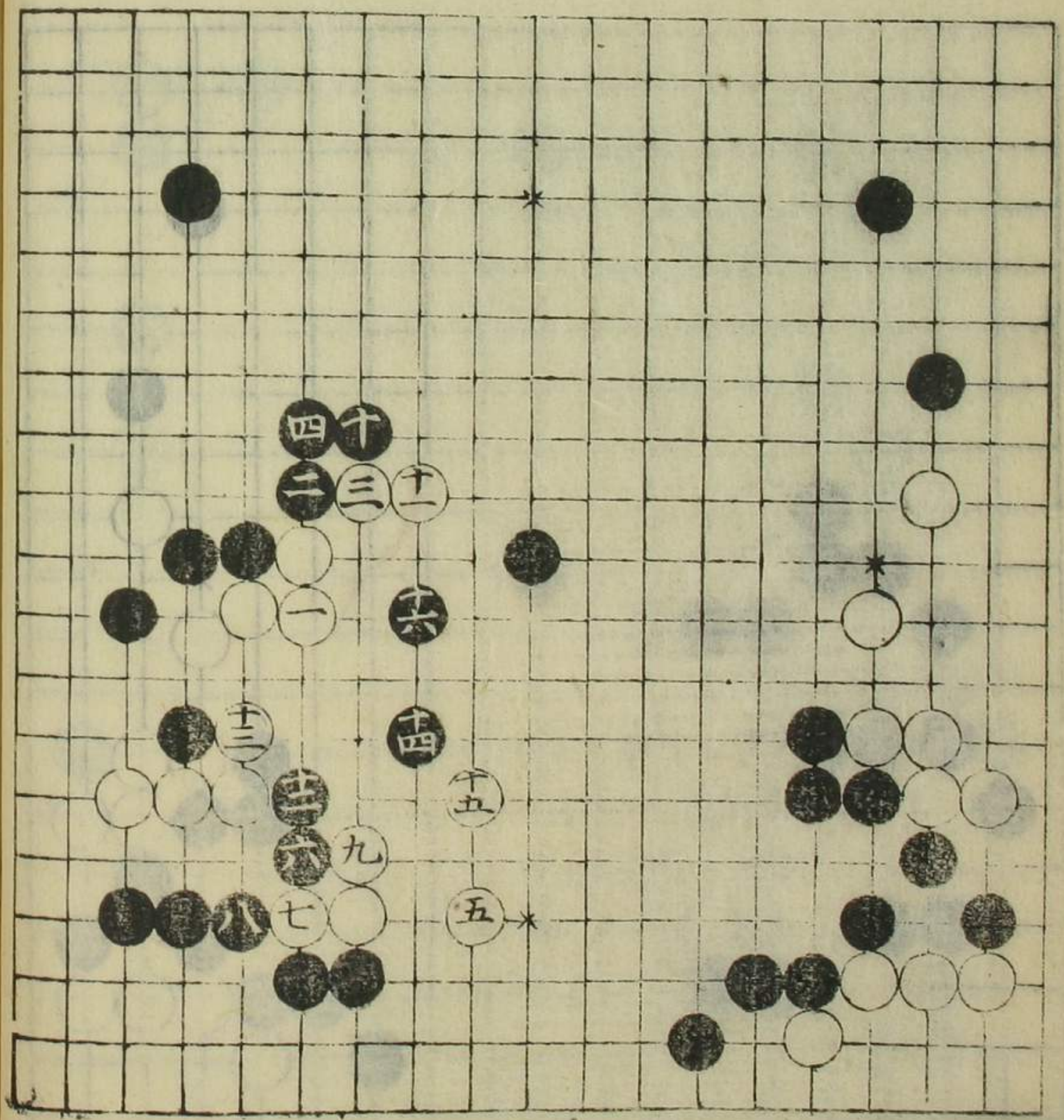
本道黒二四より  
 勢り  
 白二むて、あ、あ、あ  
 勢り勢り



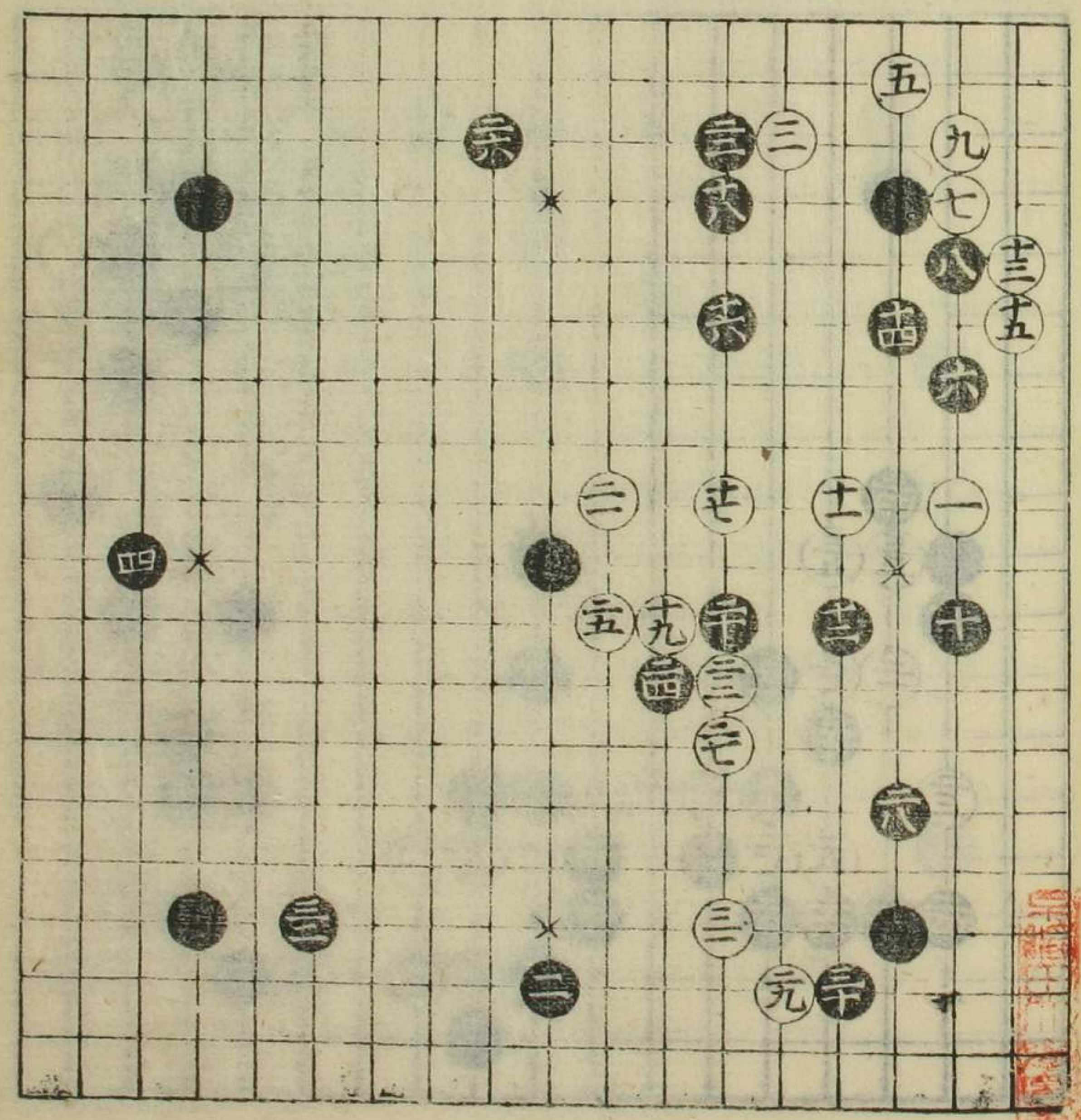
五目置之部



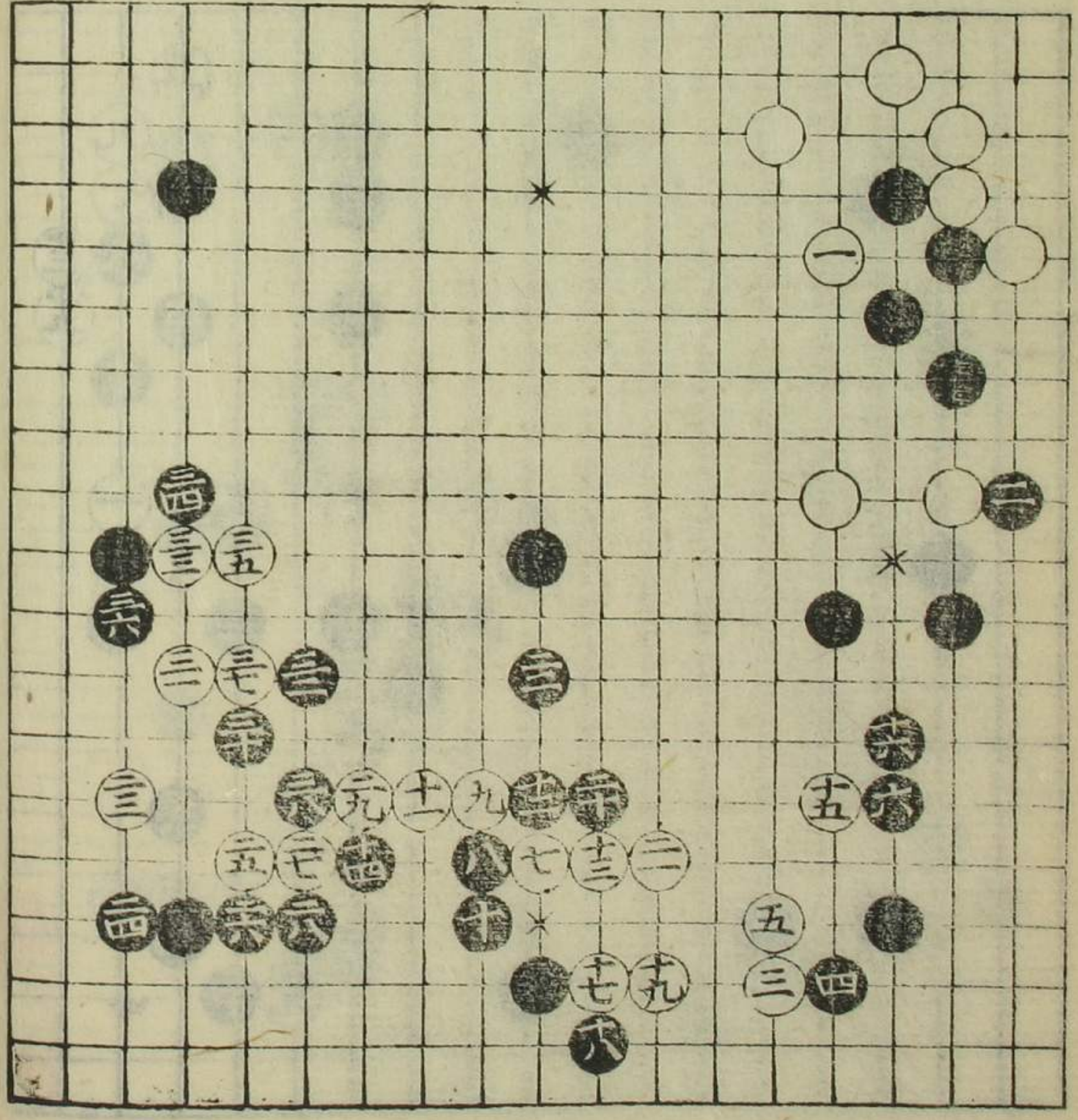
本星より五番目  
 此白二より勢  
 二ともめて四と  
 手後手厚大位は  
 勢にか



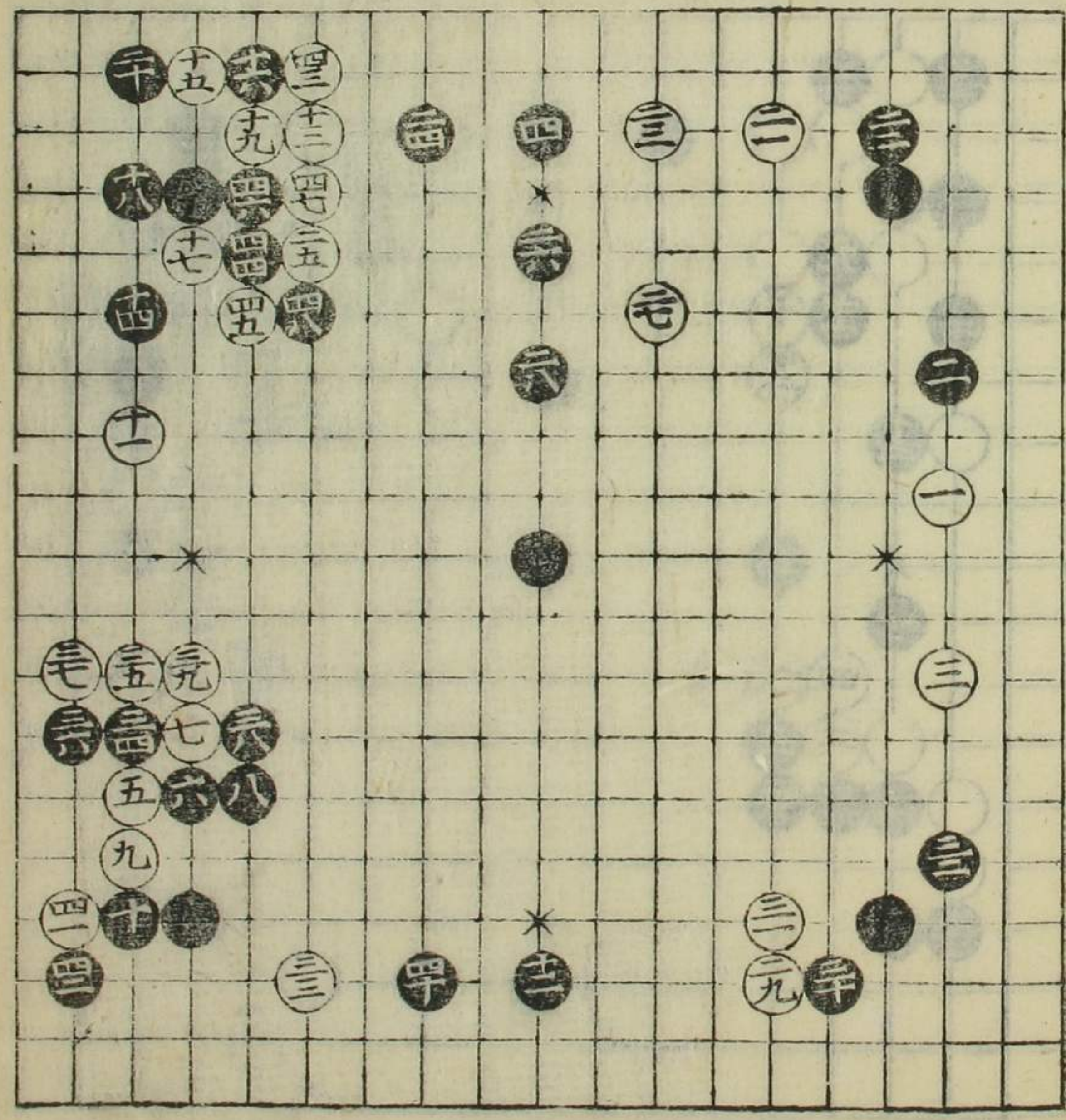
黒二十は子存二番  
 一目捨て打白あり  
 一目は孔が切ふ事也  
 白は白愚一有ふ  
 白は白ありありあり  
 手筋ありありあり  
 心得あり也



前圖白十五枚  
 一より始り  
 九筋石五五ハ  
 程々黒石

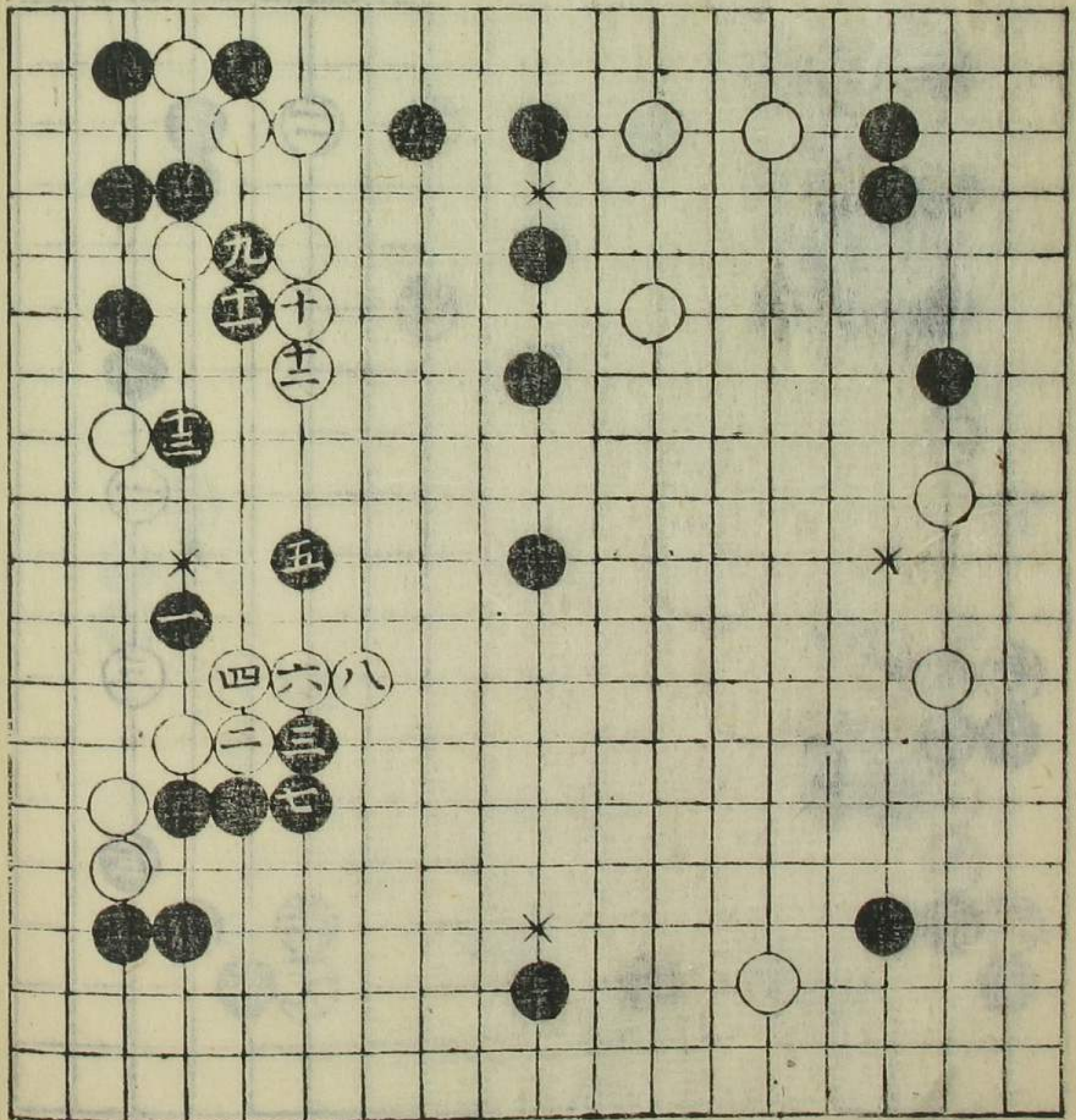


此石五筋三四の切  
 考ハ程々黒十五枚  
 ある所四十と同死  
 致ス出スハ  
 石子拾キテ此石  
 よリ次ヲ注ス



五目置之部

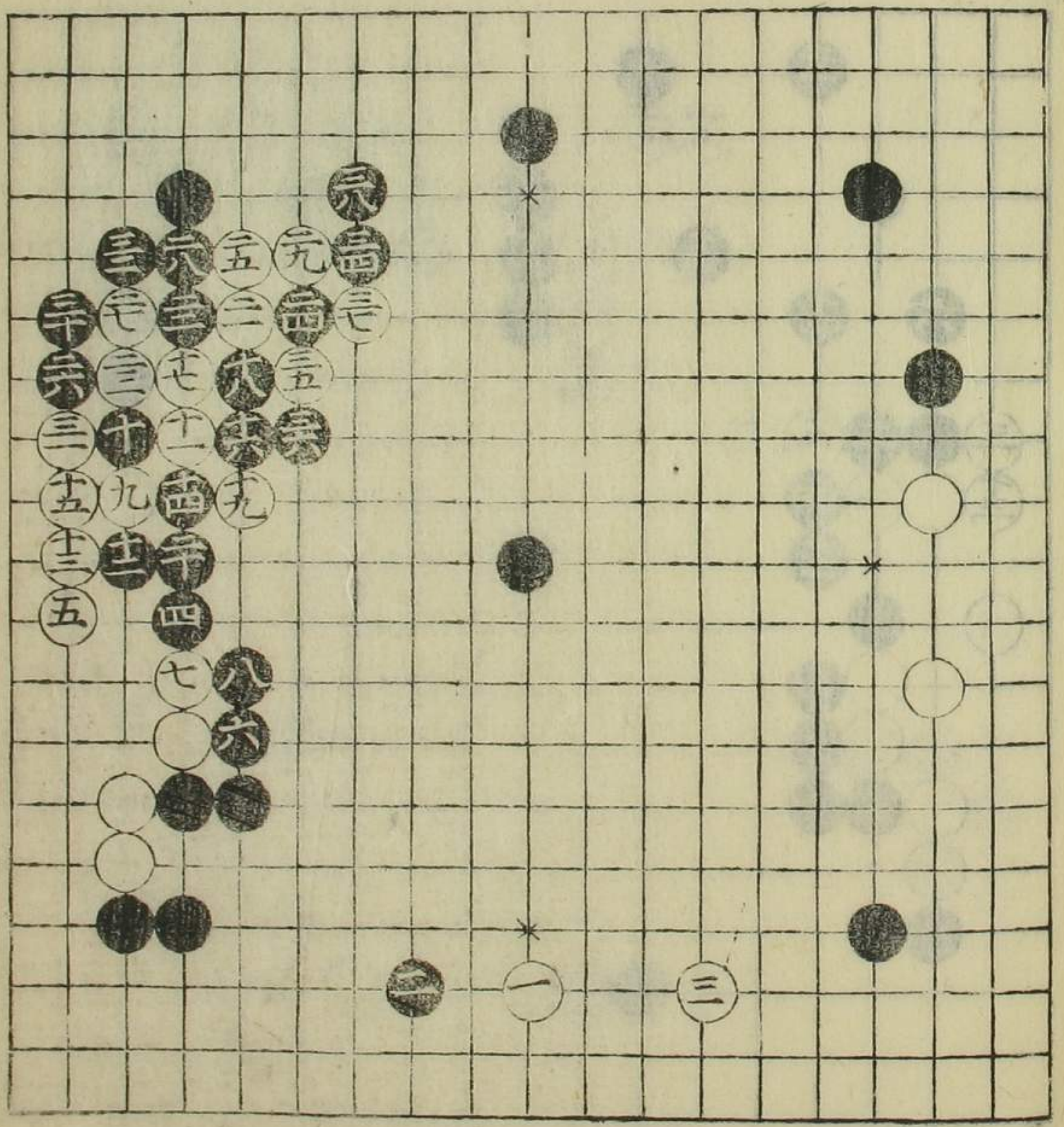
石は黒三十枚  
 より勢  
 此は流し碁の碁  
 八黒列て音



本圖白十七より  
 勢

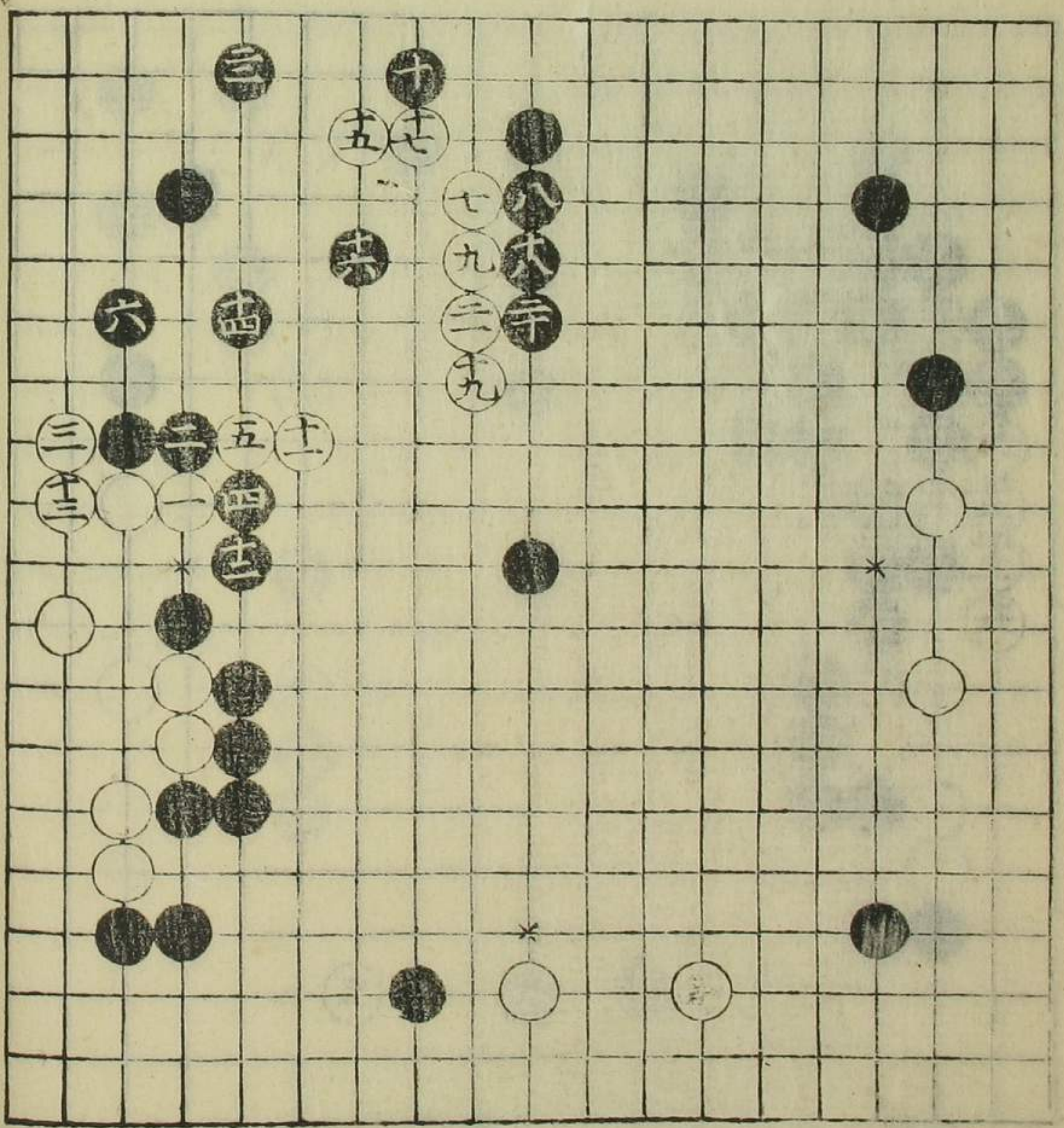
三四は手筋され  
 ありき之はありてハ  
 一筋ありて黒は音  
 勢より次記也

③ 注



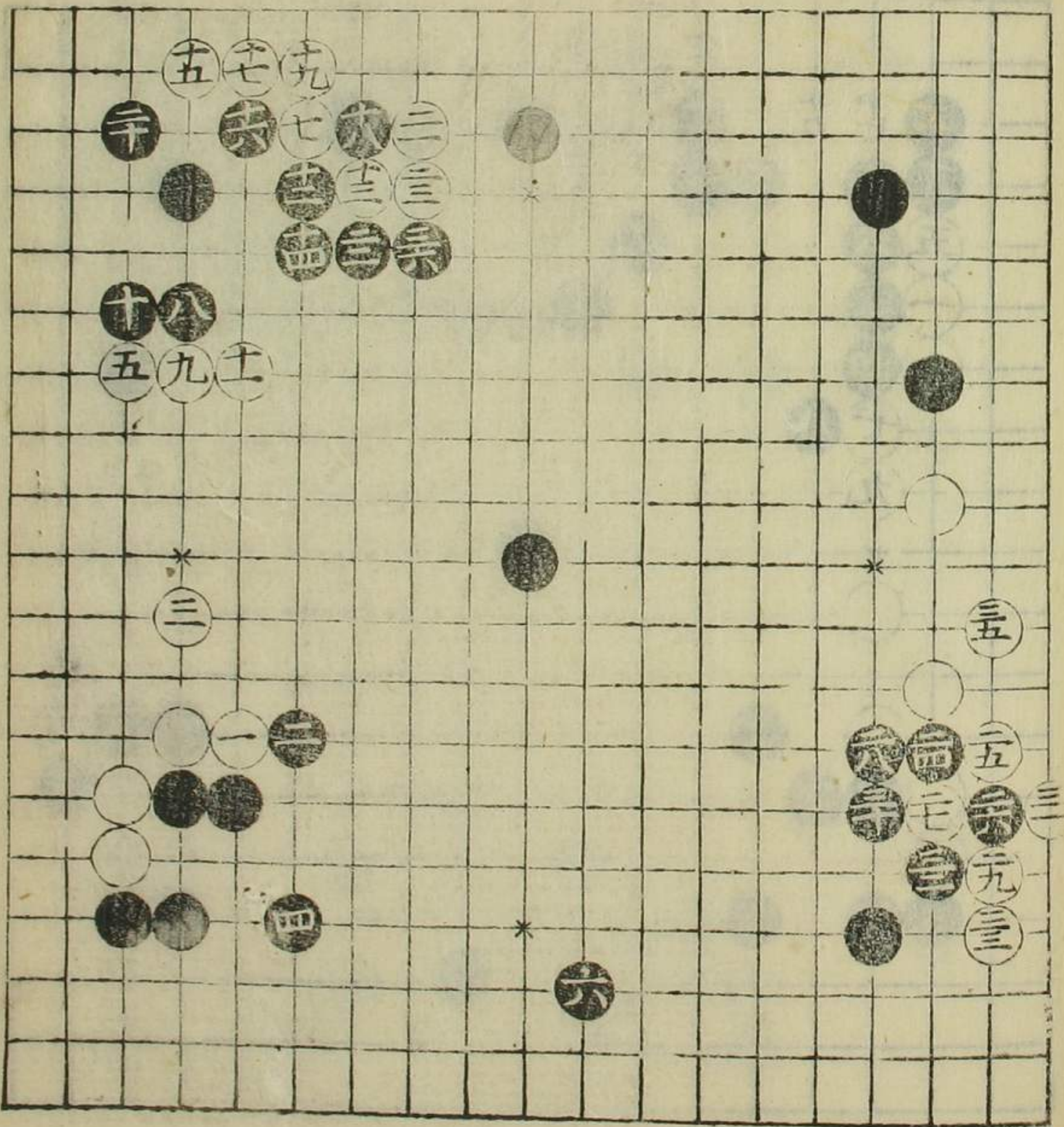
五目置之部

飛石白十はより  
 勢  
 黒六と飛石七を  
 移しひぬ勢は十六  
 此種は有二三はく  
 ぬは十はは後並き  
 打玉格と一



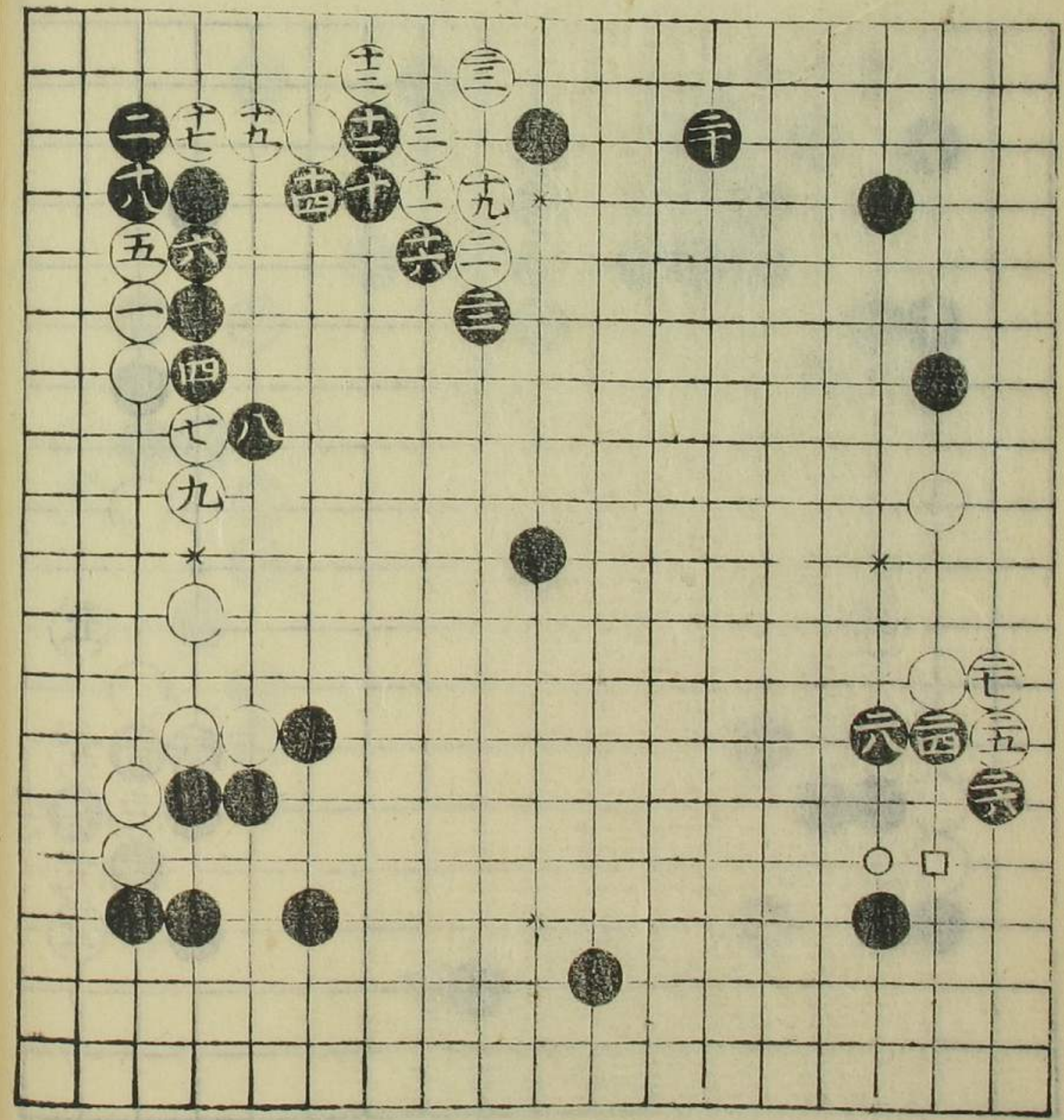
本番白十はより  
 勢

此種は有二三はく  
 ぬは十はは後並き  
 打玉格と一

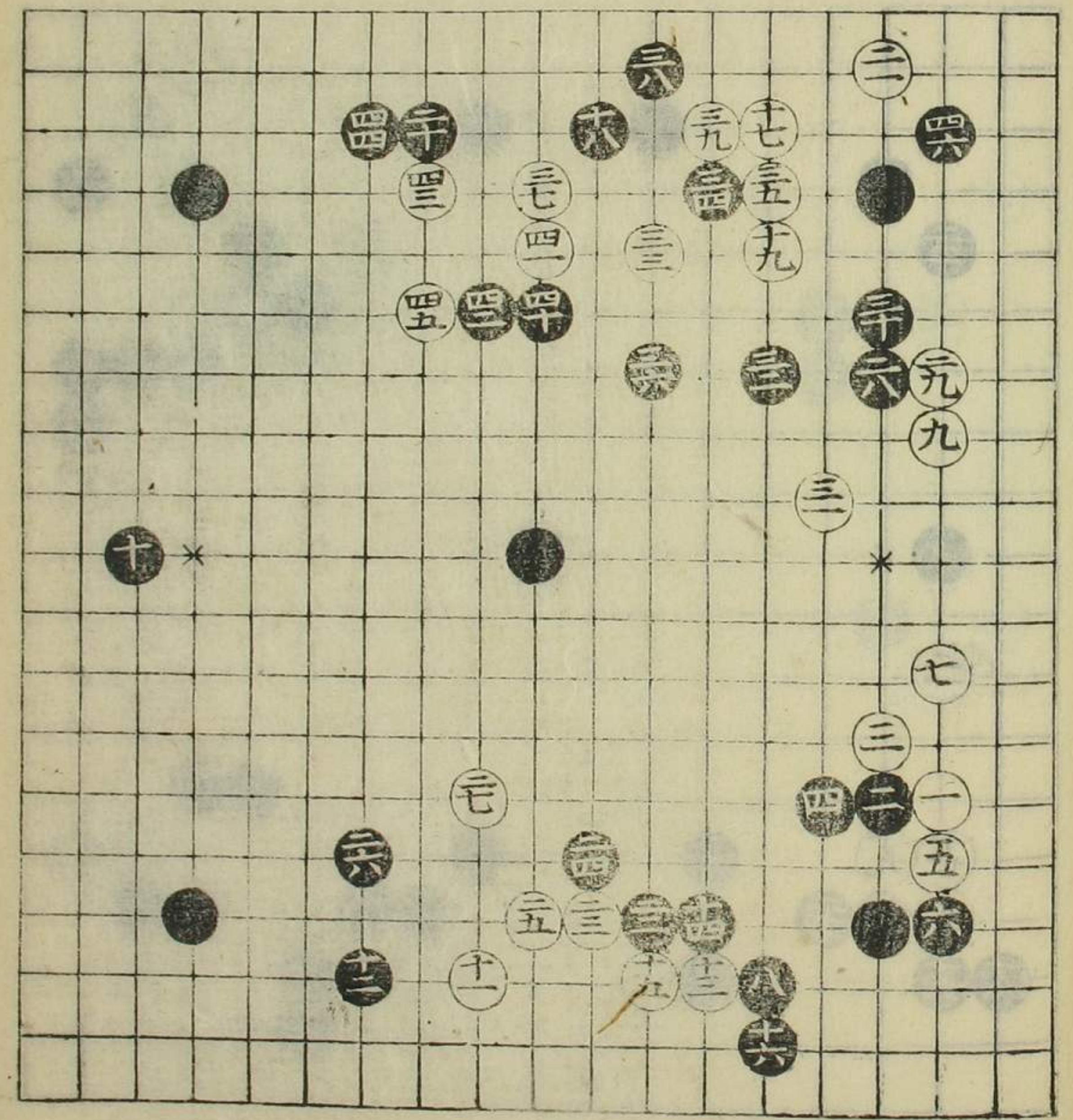


五目置之部

花堂白九比より  
 習  
 此勢より向流きか  
 白より口下のそけし  
 ○下押てお之堅く  
 ちうて君んぬへ



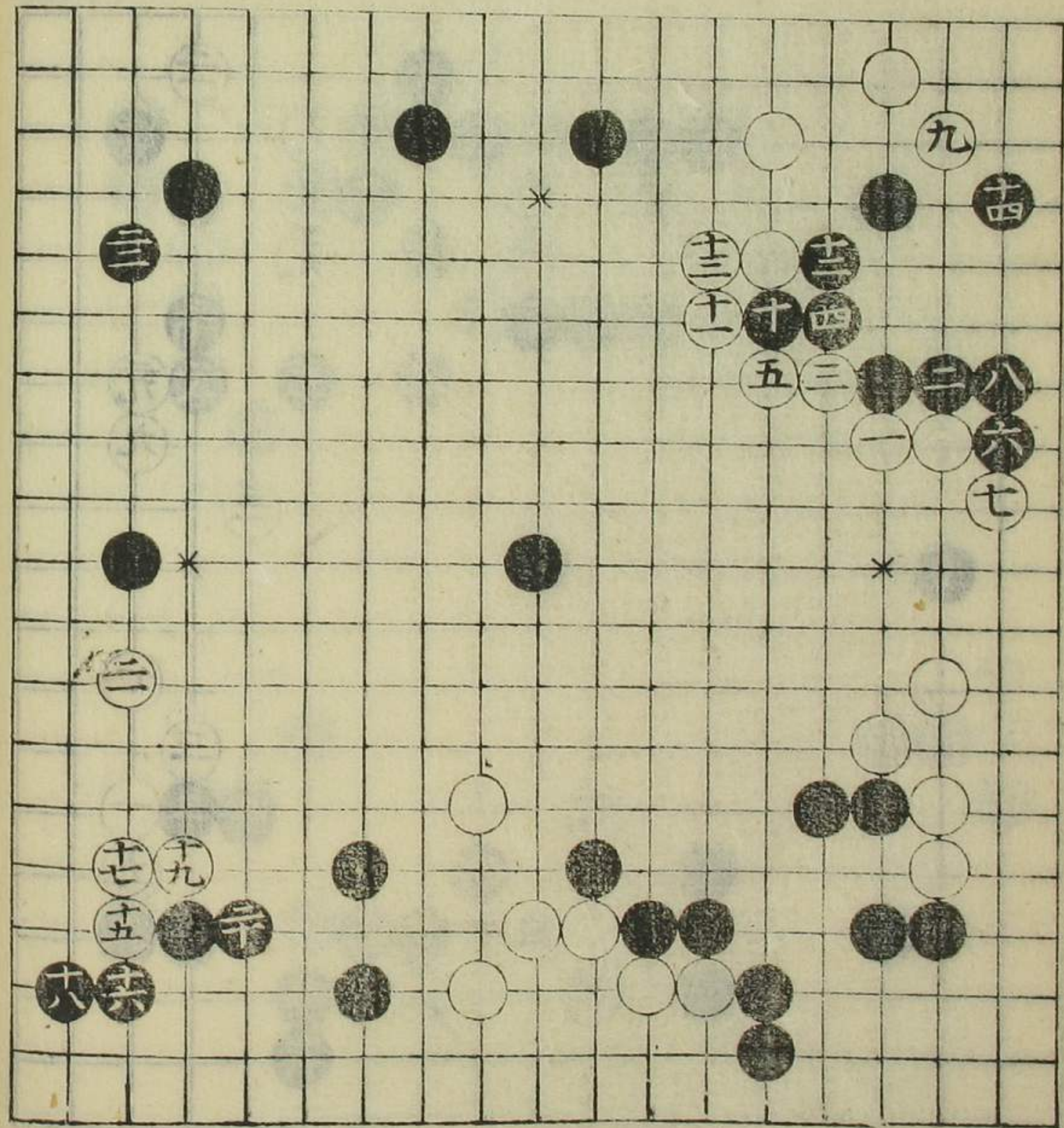
此石より向流きか  
 四六とぬり打足合て  
 申を打者白ハ抽ふ  
 ちうておおるなま  
 ぬ此打之勢り次で記也



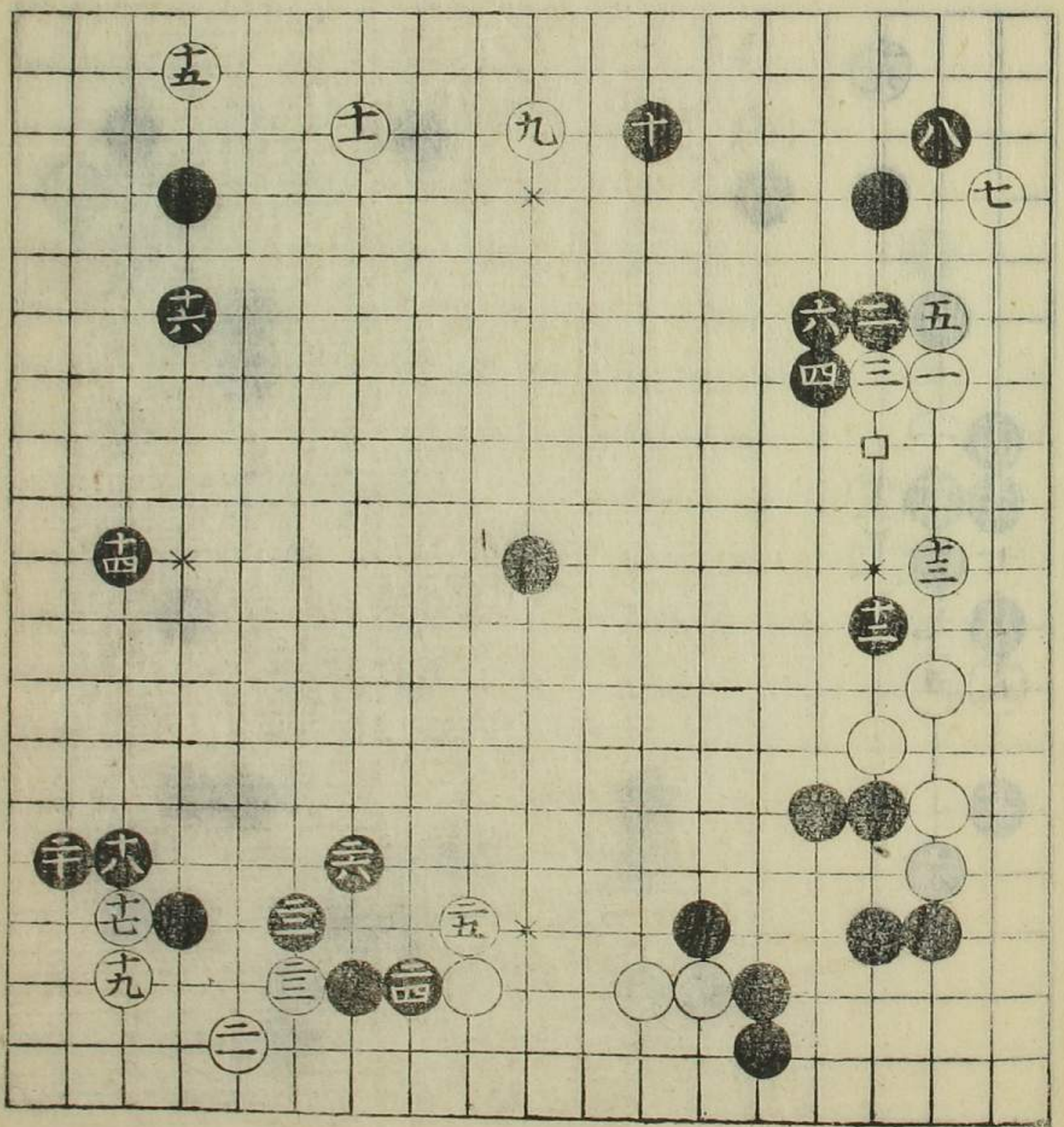
五目置之部

四一五

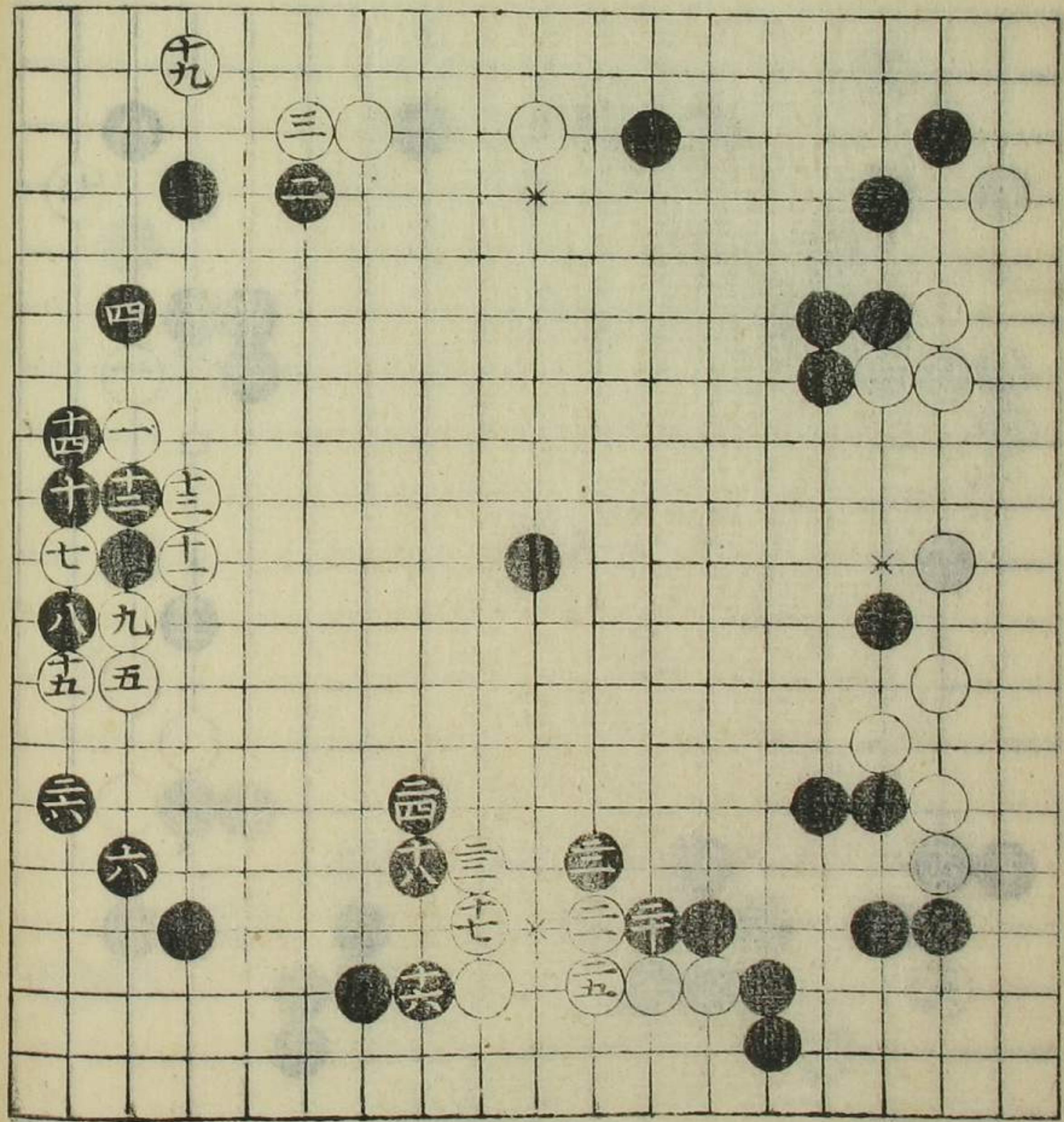
前圖白二九の  
 より勢  
 如是勢りてハ程ハ  
 は黒二のハあし  
 手の様々とも進  
 基少くハ上をう  
 あきまらるるハ  
 少ハ外の位ハ  
 是と直一



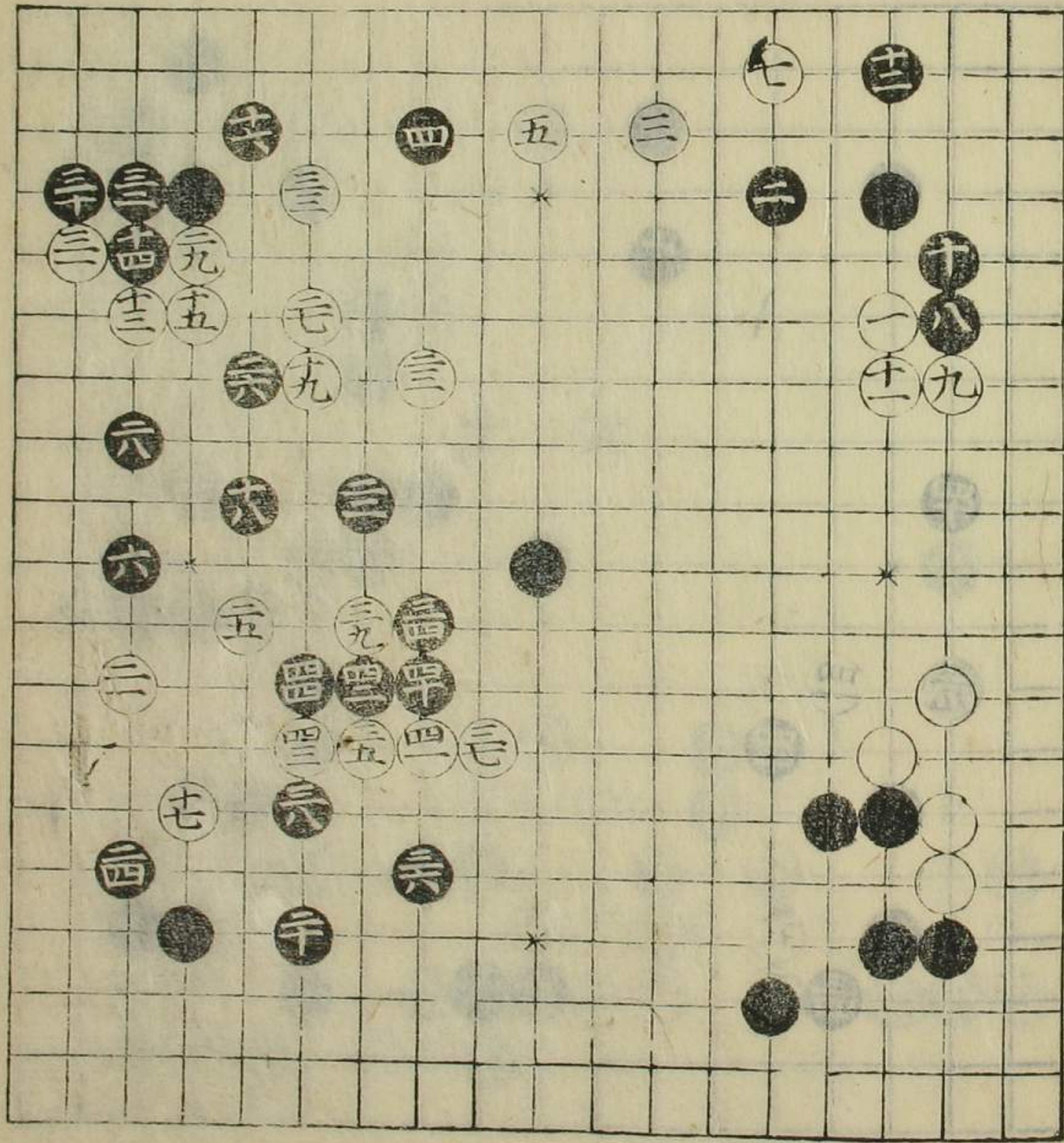
本圖白九の  
 勢  
 黒十二のハ口ハ  
 ちて打も  
 是去十二のハ  
 可打るハハ  
 白十七の時ハ  
 角少くハを  
 如是二四ハ白大  
 悪少くハ可ハ



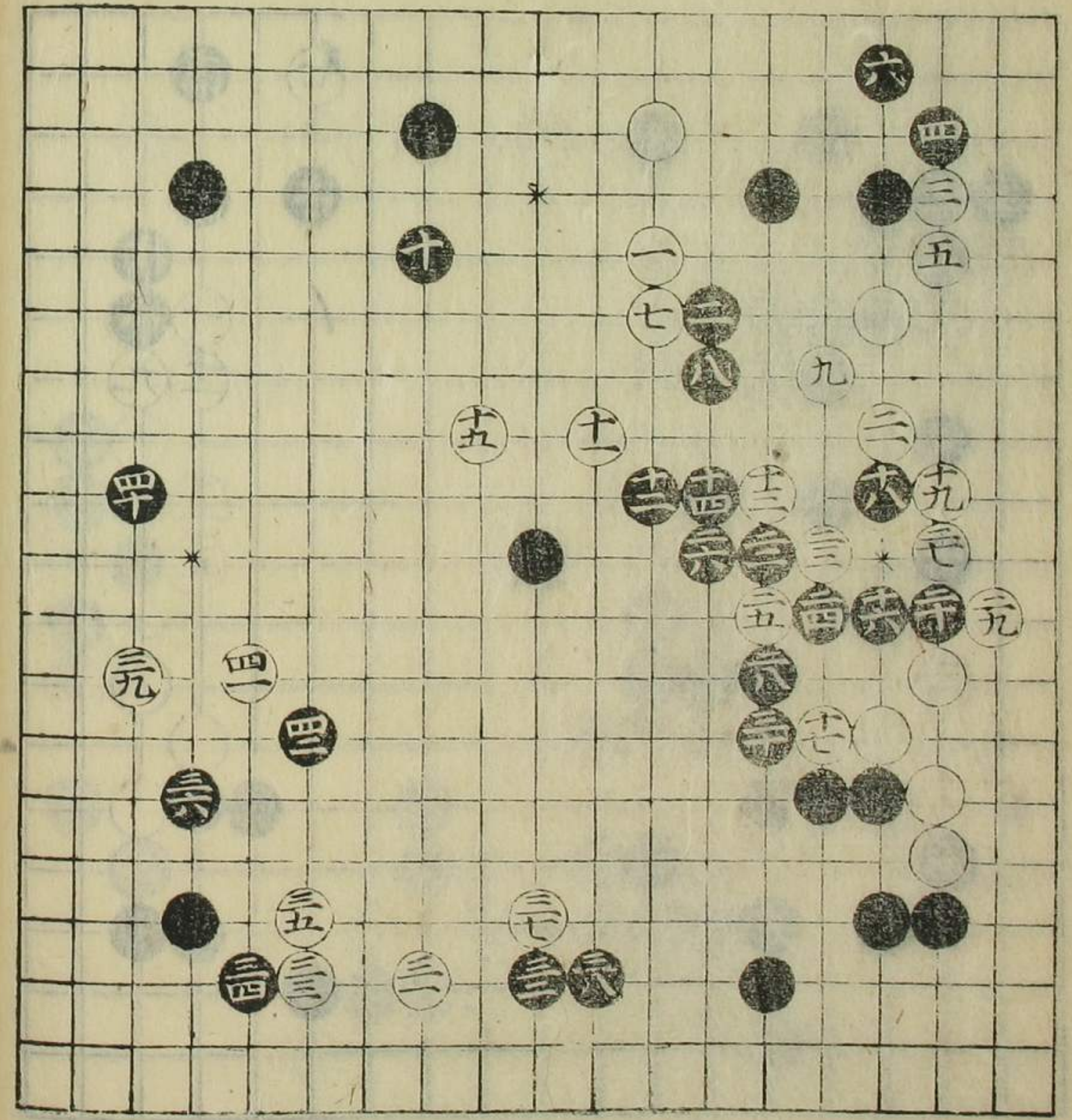
本盤白十五枚より  
 勢あり  
 此勢より黒堅く  
 ろうて白打を渡す  
 勢り次を記す



本盤白九枚より  
 勢あり  
 此勢より白三三  
 五との石堅く黒も  
 堅く十六と尖打あり  
 ぬり振合を待つて打  
 ちてはゆきありあり  
 正しくゆき打とし  
 次を記す

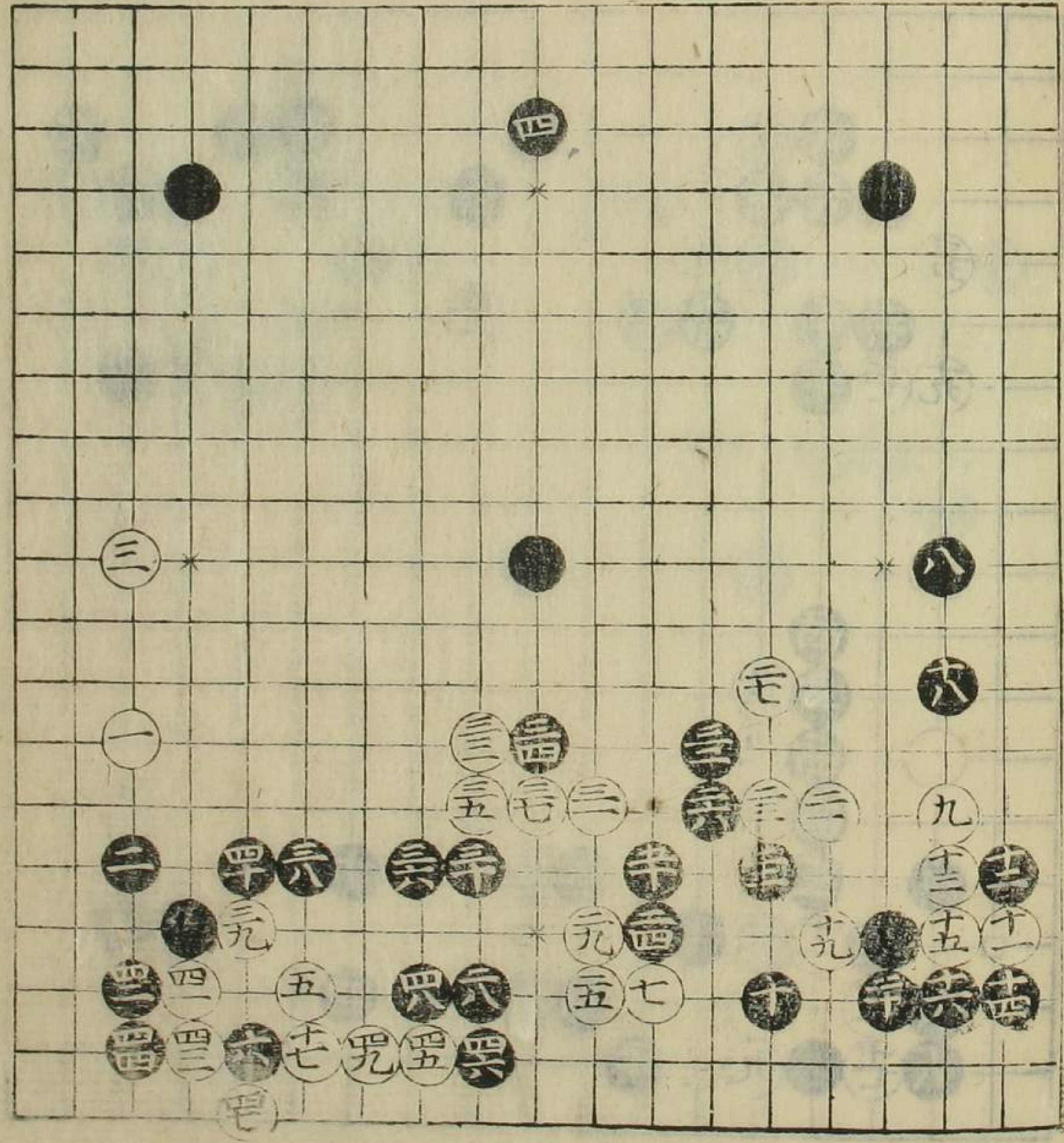


子白五れより  
 勢  
 如是勢りても黒者  
 白三のり三三の如  
 先白打をて黒白れ  
 三の如様と打るはの  
 しく白打之四二れ  
 と一



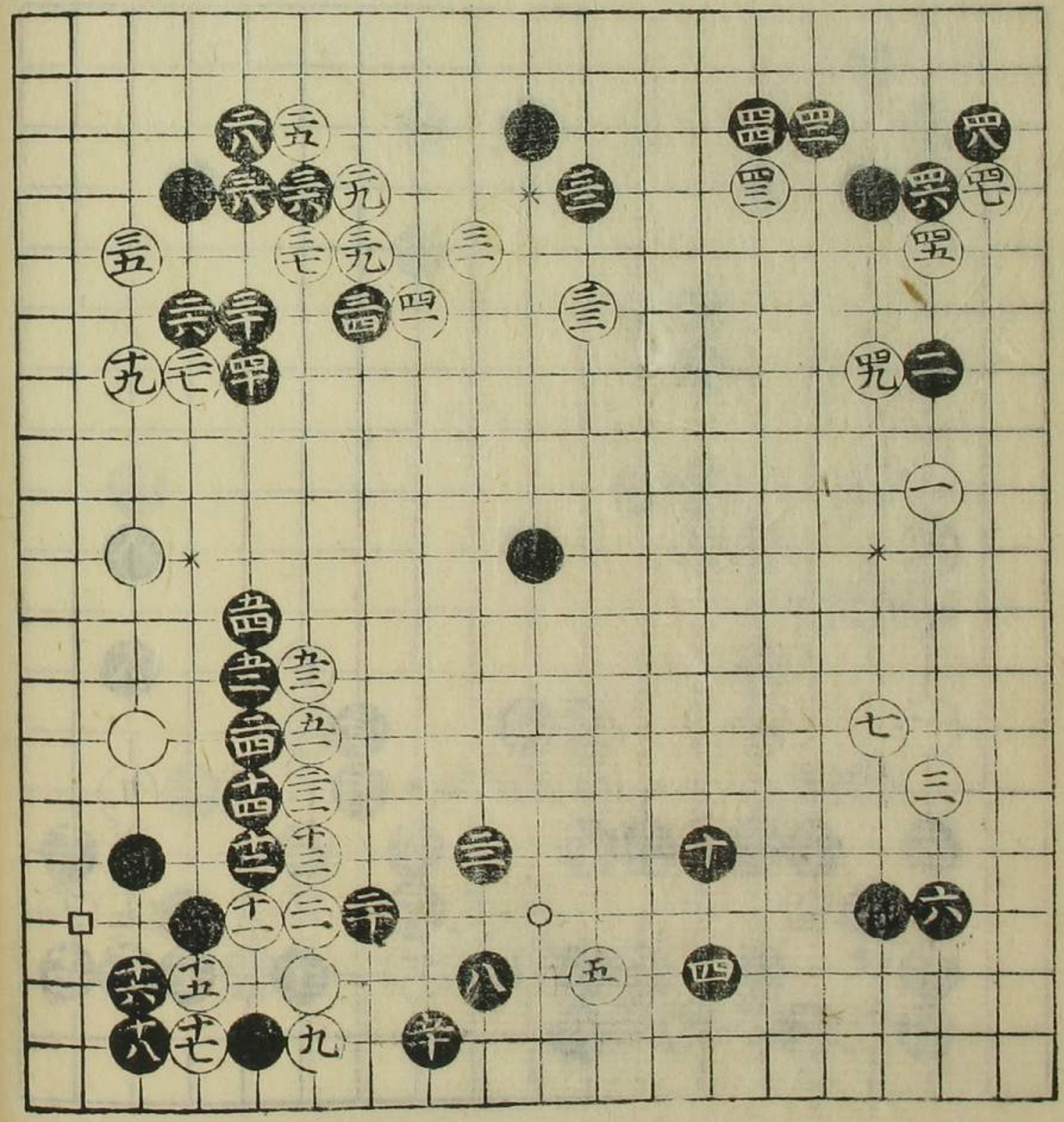
此石五打也世の  
 多くて打八白た  
 愚必獲之勢り決り記

五目置之部

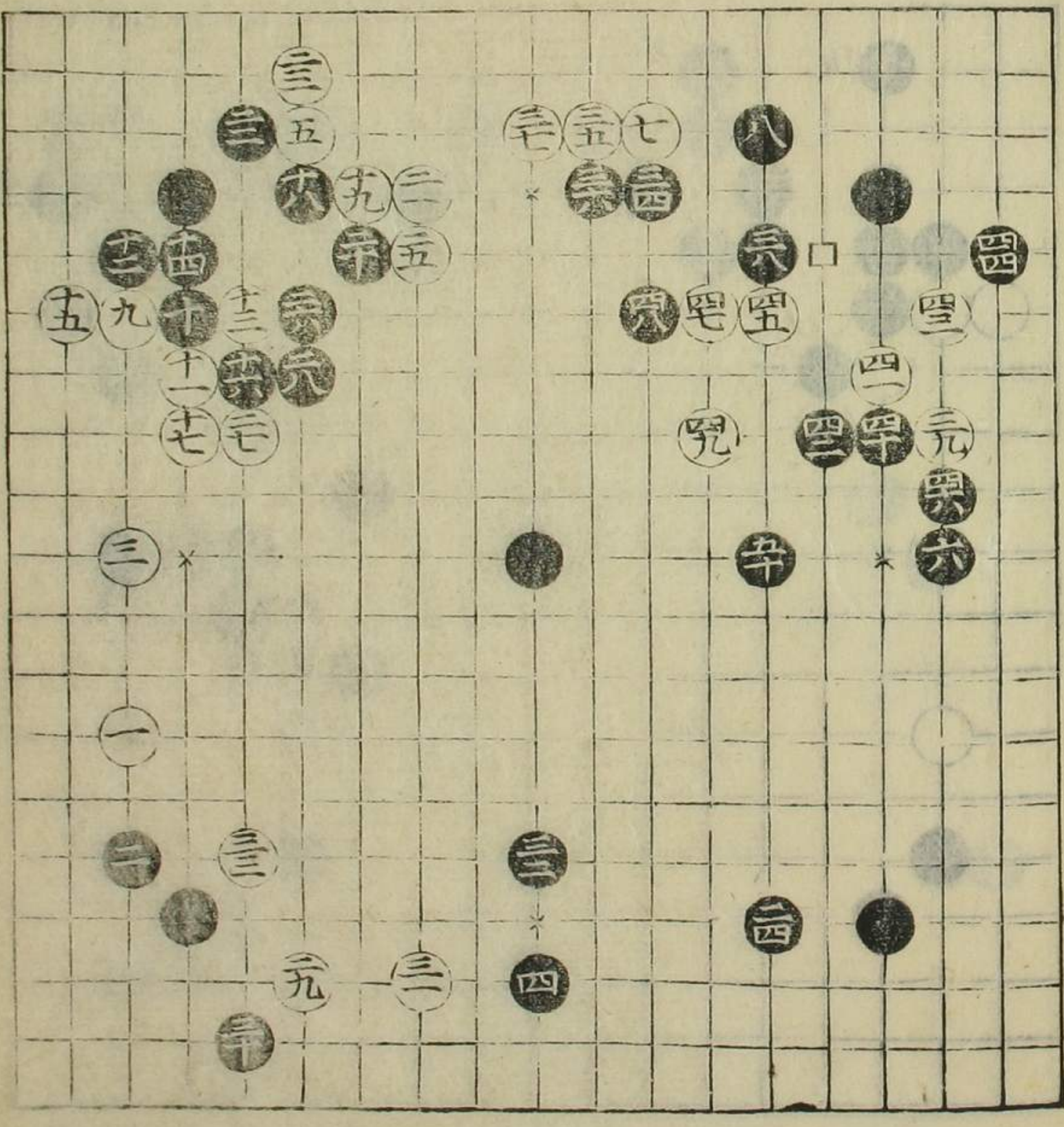




花堂白七れより  
 勢り  
 以勢り流れか  
 白十七のを以て口下  
 へのをさお八十五れ  
 一目を切白れ五の石  
 を〇下六をさけ  
 打るり

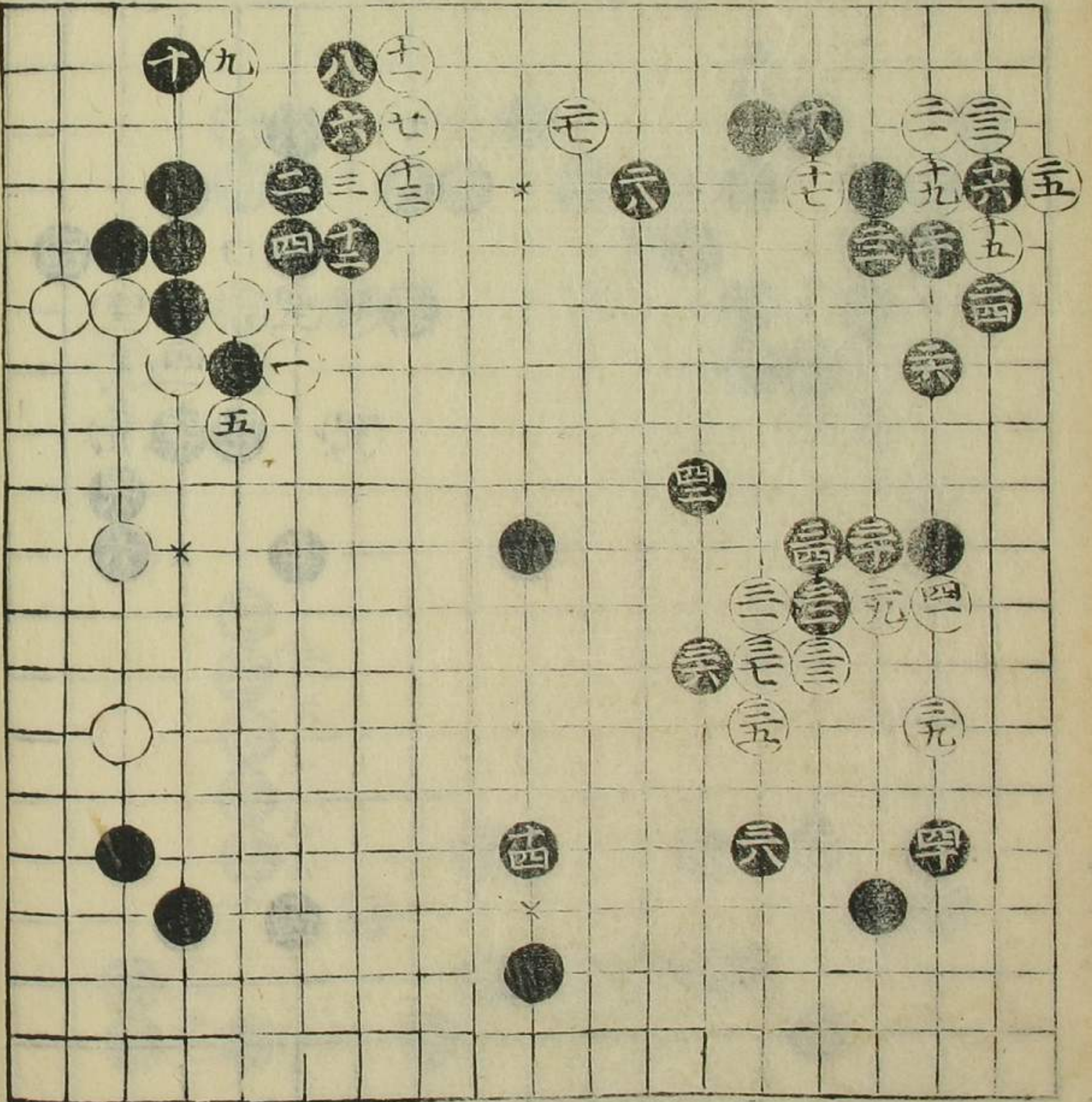


十六の切の附十七れ  
 次は白七れ  
 小て口下を以てお八  
 押ておさけお八  
 四八とせし目入の指之  
 四六の場合着毎  
 ありゆるをさけお八  
 大場之四下付てお八  
 六の子おほくお八  
 一



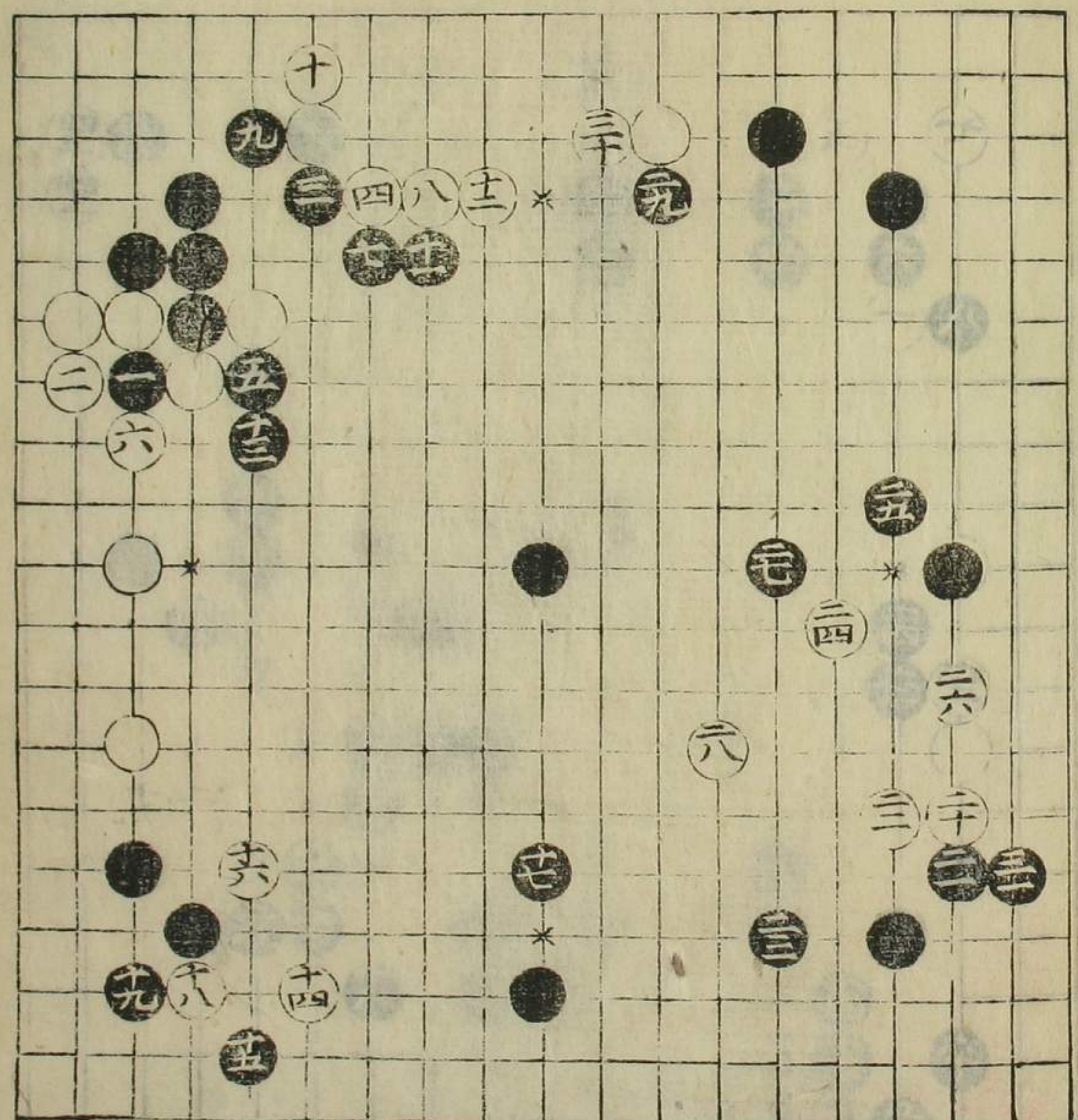
五目置之部

花墨白十七の  
 より勢  
 黒は三十三を白  
 け三九八初四乃及  
 三二一白は三三  
 の取は挂るふおた  
 有ぬ世しうれ二  
 付ておても面を  
 次り記はふ外位は  
 左はれ



本墨黒十六の  
 より勢

此石を流しおしと  
 切方難し七右二七  
 右三十一世和を  
 有よはしめれつし  
 手は振勢はよ記



五目置之部

五二

本圖白九比より  
 勢る  
 如是勢りてしむも  
 法は二八石ゆす  
 二八石は打込すて  
 悪し六の石弱き  
 由六二とて打く

